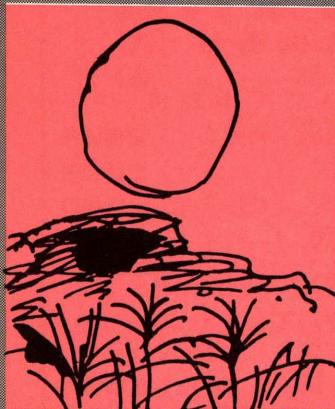


幼兒の教育

第五十一卷 第十二号

日本幼稚園協会



I2

絶

フレーベル館の保育用品

No. 41 幼児指導要録
B5判、4頁、文部省御制定の制式のもの
定価一部 5円

No. 43 指導要録表紙
定価 50円

No. 45 保育日誌

大変御好評をいただきました保育日誌、
諸先生方の御要望に応えルーズ・リーフ
式にして御便利をはかりました。用紙イ
ンク止め完全、厚上質表紙を添えて50枚
に付

定価 200円

No. 47 園籍簿
定価1枚 2円50銭

No. 48 身体検査票

B5判、文部省令第7号学校身体検査規
程による制式のもの 定価1枚 2円50銭

No. 49 父母への報告書
B5判 定価1枚 2円50銭

No. 50 園のたより
A6判24頁 定価 15円

No. 51 同カバー 定価15円

No. 53 卒園臺帳
B5判 定価1枚 2円50銭

No. 55 保育料袋
定価1枚 2円50銭

No. 56 保育證書(A)

No. 57 保育證書(B)

AはB4判、BはB5判

定価A 10円 B 7円

No. 58 園兒募集ポスター(A)

No. 59 同 (B)

AB2種あります。大きさは約1尺5寸
×2尺幼稚園、保育所共用

定価 A B 各 15円

No. 72 出席簿(縦型)

定価 1枚 2円50銭

No. 101 出席カード
A5判13枚(表紙共) 定価 30円

No. 102 出席カード用カバー
定価 15円

No. 103 出席カード用貼紙
10人分12ヶ月一箱 定価 200円

No. 111 めりえ (初級)
No. 112 同 (上級)

B5判各16枚 定価各 35円

No. 116 えとめりえ (No. 1)

No. 117 同 (No. 2)
B5判各16枚 定価 各 35円

No. 118 おさいく帳
B5判 12枚 定価 30円

No. 126 自由画帖 (A)

No. 127 同 (B)
定価 A 35円 B 28円

No. 131 折紙(特製5寸) 定価55円

No. 132 同 (〃4寸) 定価40円

No. 133 同 (並製5寸) 定価40円

No. 134 同 (〃4寸) 定価30円

以上いずれも1色100枚包の値段です。
色の種類は12色。(並製は11色)

No. 156 まんてんくれよん(10色)
定価 50円

No. 157 同 (8色) 定価40円

No. 158 お道具箱 定価60円

No. 160 鉄 (先丸鉄) 定価35円

No. 168 たのしいおしごと
お茶の水の及川先生の新らしい企画にな
る工作の本です。 B5判16頁定価45円

No. 74 園のたより用ゴム印
定価1組 12ヶ 200円

上記用品の御用命は本社、並
に御県を管轄する本社代理店
に御申し付け下さいませ。

幼児の教育

第五十一卷

第十二號

昭和二十七年十二月

目 次

表紙 中川紀元

冬を迎へる 倉橋惣三(2)

(ヌース) P・T・Aとスライド 波多野完治(6)

弱い子供を丈夫に 内藤寿七郎(8)

保育所における保母の健康管理について 珠川善子(12)

幼児の遊びと保育計画(2) 飯沼てる(16)

都会の幼児は日光を求める 徳久孝子(18)

英語国民の大宝庫(マザー・グースについて) 松原至大(21)

幼児の信仰教育に就て 高崎能樹(24)

終戦前後の長崎保育界から 荒木嘉弘(28)

報告(2) たべものに関する話を創る子供 谷口和子(31)

12月の保育 堀合文子(35)
(鈴木とく)(40)

アメリカ通信(4) 津守真(45)

第五十一巻総目録 (48)

折にふれて (52)

編集主幹 倉橋惣三

協力委員 牛島義友 及川ふみ 斎藤文雄

多田鉄雄 波多野完治 山下俊郎

編集委員 西山浪太郎 (五十音順)

発 行

日本幼稚園協会



冬を迎える

倉橋物三

冬が来る。幼稚園に冬が来る。寒くて困るとばかり思つては冬を迎える心といえない。季節々々に、幼児のための用心警戒は、心を用いなくてはならないが、たゞ、それだけでは折角の一年の四分の一を、恐れて過ごし、詛つて暮すことになつたりする。味ないことである。惜しいことである。子供には一年三百六十五日、みな好日でなければならぬ。みな楽しい日でなければならぬ。それを充分好日たらしめ、楽しい日であらしめない先生は、心なきぼつぎようかんといわなければならぬ。

冬の初めから、子供に風をひかせぬよう気をつけるのは寒冬を恐れるからよりも、好冬の幸福を失わせないためである。好春という語があれば、好冬という字もあつていゝ筈である。その好き冬の日を通じて、病床に寝て暮させないため

である。庭に出て元気に遊ぶ友達を、羨しそうに窓から見るだけで、保育室に閉ぢ籠められる不幸にあわせないためである。きょうも亦欠席して、楽しいお話のつづきを聴き損じるといつたことにあわせないためである。冬の寒さもだんだんである。だしぬけに襲いかゝつては来ない。うつかりしている先生には、何んでも不意の突発であるうが、備えある先生の保育室では、そんなど突如として、全員がくさめの一齊連発ということがあるものではない。雨の日の朝の寒暖計を検べることを忘れ、子供たちの靴下のねれでいることに気がつかないうつかり先生に、貧血症の子の可愛らしいくさめが気づ、そつと、御注意申上げるのである。おや、窓があいているじやないのと、人ごとのようにおつしやいますけれども春から夏へ、夏から秋へはあけつけなしだつた、子供には背の

とがない、北廊下の高窓であつたりする。

北の窓ばかりではない。一年中開ききりのベンチレーションだけではない。一枚一枚と、あけたて自在の筈の硝子戸の硝子が一枚こわれたまゝ、——土用休み以来のまゝになつていたりする。いくら言つてやつても、硝子屋が来ないからではありますようが、そこへ一時的に修復(?)した半紙が、うす黄く破れて、外の風に、さびしく震えているに至つては風流の極致である。風流はいゝが、そのバイブルーションがあの子の弱い鼻粘膜に備わつてさつきのくさめの音階になつたのである。感冒幼稚園の名の起る所以である。硝子戸のたつけの悪いすきまかぜに至つては、去年からのその幼稚園の、人力に及び難い運命なのがもしれない。

暖室法の科学、衛生学、経済学に至つては、それ／＼専門の研究があろう。こゝで考えるのは、その教育学である。教育学といふのも、少々過熱のようだが、冬の暖室設備によつて、保育を暖める、好冬物語りである。

「爐辺」とか、「火鉢を囲みて」という言葉もある。その意味は、たゞに防寒だけのことではない。つどいあう、親しむ打ちとける、ゆつたりする。従つて、あたゝかは素より、なごやかといつた保育の大切な心を含んでいい。そうして、他の季節では得られない、冬の日の保育情趣を深うするものである。

わたしがニューヨークの児童図書館の一室で、名のある童話家の話を子供達といつしょに聴いた時のことである。季は夏だつたが、その壁にある大きなマントルピース、（夏だから爐のところは、美しいついたてがかくしてある）を指して『ねえ、こゝに火がバチ／＼燃えている冬でしたらねえ』とその派手なブラウスの若い話術家が、にこやかに言つたことを思いだす。なにも『ワンス・アポン・エ・タイム』に限らない。『むかし／＼あるところ』にでも、爐辺は、話し手、聞き手の心を、あたゝかにし、なごやかにするものである。花の下もいゝが、気が散り易い。涼み台も話の本場だが、浮き過ぎたり沈み過ぎたりする。爐の前とか、火鉢のそばとかでは、話すにも聞くにも大切なコンセントレーションの心理が、おのづから姿勢につれて起る。そのうえに互に燃える火を眺めているところに、そう緊張にもならず、散漫にもならない、互の心の中心が守られる。『皆さん』といつて、子供の顔を凝視したり、『それから』といつて、先生の顔が鬼だの神さまだのに見えて來たりしないところに、視覚性よりも感覚性の自由な想像の世界をつくらせ易い。そんなに話方のうまい先生でなくとも（失礼）子供をうつとりさせることも、しんみりさせることも、おのづからできる。昔から、おぢいさん、おばあさんの孫への話術の自然の傑作も、多くは爐辺の産出であつたのである。

一寸理屈をいわせて貰いますが、幼児の話術——術という

べくんばの妙は、あんまり（一）かたくならず、力を入れすぎないところに秘訣があるともいえる。それも、ナマあくびをかみしめての内部散漫や、わきみをしたり、襟をなおしたりの外部散漫では困るが、誠らす／＼に暖かさを感じていたり、手の無意識運動で火を直したりする。爐辺の淡泊さ、気軽さは、誠にあらえむき、もつてこいの環境というべきものである。話者強いて語らず、聴者敢て聴かずといつた境地のステークス的でなく家庭的なところに、お話を、それ自身芸術的に実在して来るともいえないものである。

理屈はこの位にして、火鉢の冬の家庭性の極地は——少くもその一つは、それを親子取りかこんで、かきもちを焼いている情景であろう。あれを冬の幼稚園の或日の午後にやつてみられないものか。わたしは、幼稚園家庭化の一つとして、かきもち保育という、だしぬけに言つては、訳の分らない言葉を独りで用いてゐる。事々しく説明するまでもないが、板床へゴザを敷いてその上に、大火鉢を置く、そのまわりを子供で囲む。先生もその中の適当のところに坐を占める。大盆にかきもちを盛る。火鉢のごとくの上には、かなみをかけたる。子供達の顔が、かすかに火の色を反映して紅らむ。そこで、先生は長い竹箸で、かきもちを一枚々々かなみの上にのせる。以下お約束通り、かきもちがやける。かきもちは気長に、しかもまめに、注意深く裏返さねばならぬ。時にはこげるのも面白い。大きくふくらむのも愛嬌だ。先生

の膝のそばに醤油の皿がある。先生は、焼け加減を見計つては醤油につける。じゆつと微かな音がしてぶんと、醤油の香がして来る。實に日本の香である。子供らは、さつきから静かにかきもちのやける行程を観察していくが、この頃から、カタヅを呑む、咽喉の音がしだす。先生はよく焼けたのから大皿に移す。子供らは、いよ／＼しんとして控える。幾枚か焼けたから、みんなで揃つて、先生といつしょにいたゞくのをおとなしく、喜びの期待を以て待つてゐる。楽しい沈黙である。年の小さい子から、女の子の方から、順々に分かたれる。——コリ／＼、といゝ音が聞える。子供達は、——先生も、——幼稚園にて幼稚園にいることを忘れてゐる一と時である。——たゞ一つ、注意が必要といつよりも当然なことは、その保育室に一ぱんの、こうばしく香が、隣りの室にも公然と漏れていくことである。従つて、このかきもち保育は、各組個々にはできない。この時は全園いつしょでないと具合が悪いが、それで、一齊劃一保育の弊に陥るといつ心配はあるまい。陥るのでなく自然に起るのは、各組打ちあわせ保育ということであろう。組の受持ちのない園長や先生も、どこの組かへ必ず割り込まして貰うこと。——かきもち保育の説明が大層長くなつたが、囁みしめて下されば甘過ぎないゝ味がする筈である。

好冬保育は、爐辺や火鉢のまわりばかりではない。冬の間

にも暖い日もあるは、園庭にいゝ日和もあり、日だまりもある。一時間でも二時間でも、真に好冬の好機逸すべからずである。そのためには、予め、その日光タイムとその場所とを現地について研究しておくことは、心ある先生の好冬カリキニラムとなるであろう。それは午後と限らない。午前であるならば、他の仕事をそれに応じさえすればいゝ。午後日光がかけつてから、太陽の位置を勝手なところに呼び戻そうとしても、そんな我が家まゝは清盛さんと雖も、できなかつたことである。

わたしは、西洋の幼稚園や保育所を見て廻つていた時、あの重厚な建築の中で、自然の日光を得るにむづかしくて、屋間から電燈を用いている處を見て心を寒うした記憶がある。日光光線の光りだけは人工的に補つても、温と紫外線効果とは得られる。どこかの園に多い北風吹き通しのバラツク建て保育施設にも戦慄させられるが、冬に殊に恵まれる日光の温かさだけは、西洋の有名な幼稚園の幼友達にわけてやりたい位である。そうして、そこで、オシクラマンヂュウの遊びを、その国々の言葉に翻訳して、すゝめてやりたいとも思う。

それにもしても好冬保育などといつても、それを、元気な子供の方のことのみにして、先生が、冬をきらつて居られては決して、いゝ好冬保育は実現されない。またしても、口が悪いが、多くの先生の中には、かきもち保育を専門のわたしの

よう、日なた、日だまりでも、なるべく外の寒さの気流、一風という程でもないのに一を避けたがるさむがりやがいないとは限らない。それでは、冬の保育は、冬籠り幼稚園にしかなり得ない。冬籠りといえば、何かわけがありそうでもあるが、幼児と共に冬を暮すものとしては、自分のぶしょくからに外ならないのである。外国の例ばかりひくようだが、わたしはシカゴ大学の幼稚園で、冬を暮したことがある。シカゴの冬は寒い上に、毎日雪だといつていゝ。その大学の幼稚園でわたしの感心したのは、その雪の中を、積つてあるだけではなく降つている中でも、毎時間を区切つては、先生が子供を、必ず外へ出す、まめ、まめしさであった。但し、一寸だからといって外套も着せずにまるえながら一と廻り馳けさせるのではない。ちゃんと防寒の身仕度をして、靴もちゃんと雪靴にかえさせて、庭へ出るのである。その出入りに少なからぬ時間もかかるのであるが、先生方はそれを少しも面倒がらないし無駄とも思わない。子供達も少しも、おつくらがらない。わたしがつい手を出して、助けて、先生にとめられた位だ。冬の寒さに子供を鍛えるといつて、霜やけや、あかぎれを鍛錬征服とするような風習とは大に異つてゐる。先生がぶしょくでは、好冬保育は決してできない。又、鍛錬とは明かに非科学的な不用意の冒険をさせることでは決してない。



PTAとスライド

波多野完治

こんど「親の知らない子供の生活」というスライドが出来た。同じ題名の本があることはこの雑誌の読者はすでに知つておられることがおもうが、スライドはこれをもとに「絵」にしたものである。子どものしがり方、子どもに対する性教育の仕方、子どもの性感などがかなりよくとりあつかわれている。とりあつかわれている子どもの年齢は幼児である。

つくった人は戸川行男氏と、望月衛氏。たしか本も同じ著者だつたとおもうが、望月氏はごく最近まで東宝教育映画株式会社にいた人だけにかなりうまく、むづかしい子どもの心理を「視覚化」していくようにおもう。

このスライド（幻灯をつけながら、一つおきのおはなし

わたしは、PTAの会合に時々よばれることがあるが、そのたびに不思議におもうのは、PTAの会員が「長いや話」をよろこぶそ�である。「一時間の話よりも一時間半の話よりも二時間の話をこのむ。いやこのむではないかもしない。実際に二時間も講師の話をきいた日にはタイクツでたまらなくなるに相違ないのであるが、役員たちは、なるべくたくさん話をきかせて下さる」と講師に要求するのである。

まるで「講師からたくさんよい話をきけば、それだけ自分の子どもがテキメンに良くなるかのようだ。

しかし、講師の話は、決しておまじないではない。長い話をきいたからといって、そのことだけで子どもが急によくなるわけではない。

とすれば、話はごく簡単にして、実例について、具体

にしてあるもの）は主題が幼児だが、小学生をとりあつたものは、今まで出ていないので、小学校のPTAなどでも、ときどきこれを利用していくとのことである。

的につかねるような工夫がP.T.A.の会合などでは考えられなければならないのではないか。

このような工夫の一つとして、P.T.A.で、前記のようなスライドをうつしてつかう。というのは、非常にいいことだとおもう。

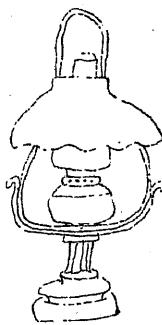
ただ話だけをきくよりも、スライドをうつして、それについて説明してもらう方がよくわかることはたしかである。話だけだと抽象的になるところが、スライドにうつしてもらえば具体的になる。又、話はその場でおもいついたことをしやべるのだが、スライドだと、三ヶ月も半年も考えねりじ、これだけは是非必要だとこうこととをスライドの内容にするのである。

スライドをたくさんつくりて、その内容もヴァライエティーのあるものにし適当な講師と、適当なスライドとを組み合せて会をひらけば、ただ話だけの会よりもきっと役に立つことが大きいだらう。

「スライドならばいつでもみられるから」といへば、話の方だけをたくさんしてくる、という役員もときどきある

が、スライドはたしかにいつでもみられるが、スライドとむすび合せて話というものは、そのときでなければいけない。こういう話を講師の方も今後研究すべきだし、又会員の方でも実質的に得になる会のもち方を考えいかなければならないだらう。





弱い子供を丈夫に

内藤壽七郎

虚弱な子供、この分り切つてゐる様な、虚弱な子供と云うものが、医学的にはどう定義してよいかわからない。そこで虚弱な子供の研究もなかなか軌道に乗らない。それなら虚弱な子供と云うものは実在しないかと云うと誰もが知つての通り実在している。この子はどうも他の子供に較べるとすぐ風邪をひき易い。とか、或は一寸寒い日に会うともう気管枝炎を起してしまうと云う如き、或は同じものを食べているのに他の子はなんともないのにこの子だけ下痢をする。と云つた調子。そして年中幼稚園を休んだり、学校を欠席したりしている。この様に弱い子と云うものはたしかにある。それがどうして医学的に見た場合難かしいことになるか。之は虚弱児の原因が決して一つや二つでないことに原因する。

小兒結核

が末だよく行はれなかつた頃のこと、小児が結核に自然感染した初期の症候、即ち時々不定の熱を出したり、食欲がなかつたり、下痢をしたりする。そして貧血があるので一応虚弱児童の条件を揃えている。併し之は結核の研究が進んだ今日では明に小児結核と云う部類に属す可きであつて虚弱児童と云うことは出来ないものである。又小児結核として治療を、即ち安静とか或は化学療法とかを適当に施すことによつて虚弱ではないのである。

アレルギー・素質・虚弱・体質

私は子供の頃は大変弱かつたが、成人したら非常に丈夫になつたと云う様なことをよく云う人がある。子供の時は三日と健康な日は続かなかつたと云うのである。この様な人はおそらく幼児時代に其の体質として過敏体質、或はアレルギー・体質があつたのであろう。例えば風邪をひき易かつたと云う

ベルクリン検査や血沈とか、X線の検査などの検査方法

様な場合であると、一寸したことで咽頭は赤くなるし或はお医者に診せる度毎に咽が赤い、咽が赤いと云はれていたのである。之などは咽の粘膜が弱いと云うよりも咽頭粘膜のアレルギーであつたと思はれる。この様な咽頭粘膜のいつも赤い様な子供は気管や、気管枝粘膜のアレルギーもある。風邪をひく度にぜい／＼と云つたり、風邪をひけば必ず気管枝炎を起さないと治らないと云う様な「くせ」があつたりするのである。又くしゃみをすると十も二十もづけ様に出て鼻水が沢山出て一度に数枚のはんかちを要する人がある。之などは神経性鼻炎とか或はアレルギー性鼻炎とか云はれているものだが本人は只風邪をひきやすいと思い込んでいる。

腸の弱い子

腸の弱い子と云うのは、既に乳児の時期からある。牛乳をのませるといつも下痢をすると云う乳児は決して希でない。離乳期に始めて卵を与えた時に、下痢をして以後卵を与えると下痢をするとか、或は吐くとか、時には蕁麻疹が出来るとか云うこともあらう。蕁麻疹でも体の表面に出来ると、アレルギー性と云うことを考えるが、只下痢をするのでは多くの場合アレルギー性と云うことよりも、この子はお腹が弱いと云うことになる。吐けば胃が弱いと云うことになつてゐる。殊にその下痢と云うアレルギーの病状を起した食物が、牛乳鶏卵とか云う様な普通ありふれた食べ物である場合は全く原

因の不明な下痢として片づけられ、この子の腸が弱いと云うことになつてしまつ。それだけなら末だしも、神経質な家庭では、食事の量の制限が行はれる。ひいては栄養失調と云うことになる。

アレルギー性体质の下痢は食物の量を制限するより、抗ヒスタミン剤の内服とか注射をして見ると割合に速やかによくなるものであるし又、食物をよく注意して見ると下痢を惹き起したと思える食品をつきとめることも出来る。例えばよくある牛乳に過敏であつて牛乳をのむと下痢をするとか便がゆるむと云うこともよくあることだし、又鶏卵に合はない子供も少くない。或は時には味噌汁を与えると下痢をすると云うのもあれば、納豆をたべると下痢をすると云うのもある。之等の場合気をつけなければならぬことは、子供は必ずしも其等の食品を嫌いないこと、否寧ろ好物であることもあることである。其等の下痢を起す食物は極く少量でも害をするともあれば、或は、幾日かつづいて相当大量に与えたあと下痢をすると云うこともある。それで下痢の原因となつてゐる食品の発見が容易でない。牛乳に適はない子は牛肉にも合はないことがあり鶏卵に過敏な子供は鶏肉もよくないと云うことである。之等の下痢の原因の食物は子供の体に合はないからと云つていつまでも与えないでなければ子供は成人して後も一向に其体質はよくならず食べる下痢と云うことになるから之を治すには子供の体の調子のよい時を見てその食品を少

量宛——例えは牛乳なら一勺位を与えて見て、又一両日して

から今度はそれより少し多い目にと云う工合に段々と量を増して行くことである。そして其の食品に対し慣らしてやるそاعすればもう牛乳をのんでも、或は牛乳で作つたものを食べても下痢することはなくなるでしよう。

之の様にくしゃみをするとか蕁麻疹とか下痢とか云う様なアレルギー性の病状は今迄も知られていたことで、皮膚とか腸粘膜の変化ですが、茲に御紹介して見度いのは、副鼻腔粘膜のアレルギーです。副鼻腔と云う様な言葉は解り難い名前であるから少しく説明を要すると思う。昔からある所の蓄膿症、この膿は、鼻の両側或は額の所などにある小さな洞に膿がたまるのですが、副鼻腔と云うのは之等の洞のことです。そして之の洞は骨で囲まれていますが更にその骨の表面は粘膜で蔽はれています。この粘膜は鼻のそれと同じ様で、子供が風邪をひけば赤くなり、そして鼻と同じ分泌を致します。

普通風邪の時鼻が出て鼻がつまることは誰でも気がつきまして鼻水がとれ一応鼻も通るところで風邪はもうよくなつたものとしていますが実はそうではなく、この副鼻腔と云う所の変化はいつまでも残つていて鼻の様なものを出します。それなら鼻を垂らしているかと云えれば決してそうでなく、この鼻は鼻の方に出すに咽の奥を通つて胃の方に下つて行きます。睡つていると夜な／＼鼻を多量にのみ込んでいると云う事になる。

微熱児童

話は少し変るが昔から微熱児童と云うものがよく云々された。そして色々の人によつて、この微熱は結核とも関係がないし又、体をよく診察しても別に微熱の出る原因が見つからない。そこで熱の出易い体质の子供と云うことにしていいだ。大丈夫だ、何もない医師は云うが、併し七度二分三分と云う熱がいつも出る。幼稚園や学校に出さないで家に安静させていても出る。そこで一部の人は之を体质だと云い出しが理である。放つておけと云うのである。成る程放つておいても其以上高い熱も出ず、併し何んとなく疲れ易い。食物もあまり欲しがらないので母親の気をもませたものである。之が後で述べるがやはりアレルギーであるし治療も容易である。

疲れ易い、根気のない子供

斯う云うものもある。一つことに長く根がづかない。すぐ飽いてしまう。じつと坐つていて先生のお話を聞かず、所謂お行儀のわるい子と云う批評をうける。そして非常に疲れ易い。朝の食事が一日中で一番食べ方がよくない。この様な子供は決して少くない。私は七八年前からこの様な子供を観察していたが、それ等は申し合はせた様に、肺腸筋の所を握つて強く圧すと痛がる。——(ふくらはぎの所を足の力を抜かせておいて、きめ一つとつかむと痛いと云うのである)之は以前からVB欠乏の時即ち脚気病の時にある病状である。

そこで私は \vee B¹をこの様な子供達に内服と注射をして見たところあまり効果がない。更によく研究して行つたところ遂に之等の子供達の咽の奥にはよくうすい鼻汁（時には濃いことあるが）長く下つて食道の方に垂れ下つてゐるのを見て、之が副鼻腔炎と関係あると考えた。そこでこの様な子供の鼻の両側或は額一部を指先きで強く圧すると、痛いと云う。或は痛い表情をする。頭を後え引いたりする。之の様なのは副鼻腔の粘膜の過敏症があり、又特殊な分泌液を出していることが想像されるのである。

副鼻腔粘膜のアレルギーと慢性気管枝炎

咳をする子供、殊に冬中咳がとれず、咳ばかりでなく、一寸風邪を引くといつも気管枝炎が起らなければおさまらないと云う様な子供が居る。之もいくらダイアチンや、オーレオマイシン、テラマイシンなどをのんでもよくならない。四五月になると又忘れた様によくなると云うことを毎年繰り返えしている。之も其の本当の原因は副鼻腔炎であるとされている。であるから之の副鼻腔炎をよくすればこの気管枝炎もよくなりと云う関係がある。扁桃腺やアデノイドも或る程度この副鼻腔炎が原因となつていてると云う。

青い鼻を垂らせば蓄膿症の疑を誰でも持つが鼻を垂れないアレルギー性の副鼻腔炎があるので、之は外に現れないし、又分泌液が膿汁でない限り耳鼻科の先生も蓄膿症とは云はれ

ないでしようし、一見健康児と云うことになる。併し前述の通りどこか弱々しく、疲れ易く、時には微熱も出す。時には腹痛もあり、下痢もし易いと云う所謂虚弱兒に属する子供達は之又副鼻腔粘膜のアレルギーが原因している。その証拠はこの副鼻腔粘膜の分泌を少くするか或は全く止めると疲れ易かつた子は全く疲れを知らなくなり、根気のなかつた子は根気のよい子となり、微熱はさつぱりと消えて二度と母親を悩さなくなるし、冬中気管枝炎もなくなるのである。副鼻腔の粘膜の過敏を抑える方法として色々とあるであろうが、私は数年前から副鼻腔の上に当る鼻の両側とか前顎部に超短波をかける方法を応用した。毎日十分間、十回—二十回が大体目的を達する。いくらビタミンB¹を注射しても効かなかつたのがビタミンB¹の注射はおろか内服を全くしないでいて、最初血液の中のビタミンB¹量が正常の $\frac{1}{2}$ — $\frac{1}{3}$ に減つていたのが全く正常になる。そればかりでない、十回—二十回超短波照射の間に食欲旺盛となり体重も五〇〇瓦—一〇〇〇瓦と増すのも稀でない。虚弱などどこかえ飛んでしまう。

最後に申し述べ度いことは之の様な副鼻腔の粘膜のアレルギー性体質による虚弱兒と云うものは全児童の三〇%以上あると云うことである。勿論其の程度の差は種々あるが、單に強壮剤やビタミン剤だけに依存せずもつと虚弱の原因を探して処置をすることを提唱して止まないのである。

（著者、日赤中央病院小児科部長）

保育所における

珠川善子

いくら優れた施設をとゝのえても直接これにたずさわる人に当を得ていなくてはその効果は上らないものである。この事は世のいかなる事業にも通するところではあるが、特に保育に於ては、導く方も導かれる方も人である。人と人の接觸の過程にその目的は漸々と進められて行くもので人対物質の世界ではない。それ故導く人の如何が大きく事業に影響し、施設その物はより効果的に事業を推進せしめてゆく役割を演ずるに過ぎない。

私共は近代的、理想的な設備を誇る保育所 あるのである。

私共は近代的、理想的な設備を誇る保育所に於て、園児に何となく生気がなく、こまつしゃくれ、だゞ形式にあやつられて居るのではないかと思われる保育所に接する半面、施設らしい施設となく、青空保育に近い形で營まれて居る保育所に生き生きとした明るいしかも秩序ある生活が營まれて居る実例もしづく接する。こうした状態は何によりもたらされたものであるか、その多くは保母の幼児に接する熱意と心がまえ、態度、そうして技術によつて生れるものである。保母自身が生活に疲れ切り、今では保育の理想と程違ひその辺さうにか送れば良い、となゞ形式的に保育をしているにすぎない保育所では折角の施設も死物に化し、時には伸びんとする芽を萎縮させる役割を行つて居る場合さうに於て、子供の世界では、絶えず伸びんとする。大地につかり根を張り、やがては大樹となり花を咲かせんと旺しい生々發展をこゝろみつゝあるのである。その為に外界よりありとあらゆる肥料を吸収せんとして居るのであつて、保母は良くこの要求を觀察して適切な肥料を与えるべく努める。或は時に自身が肥料となつて旺しい幼児の成長を見守らねばならない。美しさにあこがれる心、正しさを愛し正しさを追求する熱意が保母に欠けていて、どうして他の人を導くことが出来ようか。児童福祉施設の中で、その対象に最も大きな影響を及ぼす乳児幼児の保育に携る者としてこゝに深い反省がうまされる。保母が人として正しく己が道をんで歩居るかどうか

か。また保母をして保育の理想に正しく歩ませるよう、その環境が整えられて居るかどうか、検討されなければならない。

保母の人格的資格の第一に、必ず心身が健全である事が要求される。保母が朗らかで屈託なく仕事に打ち込まれる人、常に幼児を慈しむ愛情と鋭い觀察力を有して適切に技術を発揮出来得る人を、優れた保母の資格者と言えようが、更に保育の理論並に実際について研究する態度、これらの諸条件は何れも肉

体的な健康さと不安なき環境より生まれる事は当然である。

従来かのような面は比較的なおざりにされて居たが、保育事業を正しく進めて行く為に、私共は保育事業の中核たる保母に対しあらゆる角度から検討し、保母が貴い使命に打込まれるように計らなければならない。

保母は疲れすぎている

私の学園の学生が本年一月中旬より二月中旬に至る約一ヶ月間、県下の保育所に保育実習に出て帰つての報告は「保母の仕事は余りにも忙しく疲れすぎている」と感じ更に、学生から眺めた夢に描く保母生活と現実に見る姿の余りにもかけはなれて居て夢も抱負も情熱も消え去る思いがしたと、述懐して居るも

のさえあつた。

更に今春の卒業生のみを例にとつて見ても就職前にそれぐぞ密な身体検査を受けたに

もかくわざ数カ月にして要注意者二名を出

すに至り、その何れもが過労に原因して居る事を専門家より指摘された。

こうした動機より保母の健康に関する実態調査を行い保母の実態を把握する一助とした

保母の実態調査について

調査対象と方法

調査の対象として愛知県下公私立保育所保母二七一名とし、質問紙法により回答を求めた。

調査目標

調査目標は保母の生活実態と健康調査とし更にこれを

一 勤務時間の分析

- 一 作業姿勢
- 一 休憩時間
- 一 疲労の量
- 一 生理休暇

の五項目に分けて調査した。

(一)この調査の結果

この調査の結果を見ると勤務時間の最高十二時間最低七時間三十分平均九時間となり、全体より見て最

高位を占むるのは九時間二十分で二十六%次は十時間の十九名となり、九時間より十時間は全体の六十八%となつて居た。

勤務時間の十時間までは保育の性質上止むを得ないものとしても、十時間以上の勤務は過重労働と考えられ、更に十二時間勤務に至つては既に保母の健康問題に止らず社会問題

として考慮されるべき性質のものと言えよう。(勿論この勤務時間に通勤に要する時間は含まれて居ない)更に家庭に帰り女性としてそこで行わなければならない家事に費す時間を加えれば保母の体力の保持そのものが非常に困難となる。この十時間三十分から十二時間までの長時間勤務者は全体の十七%になり、全体から見れば多い数字とは言えないが、このような過重な勤務を継続して向かつ明朗な情緒と、豊かな性情が維持出来ようか。

(二)休憩時間について

更に私共はこの長時間勤務中保母には休憩時間がおかれて居ない現実を直視しなければならない。輝峻義等氏の「疲労と休息の研究」によれば「仕事と疲労の関係で最も大切なことは、仕事中に適当な時、適当な長さの休息時間をはさむことである。もし一定の職業に從事して居る人に、適当な時に適当な長さの休憩時間を与えるならば、その休息中に疲労

が回復せられ渡労が起らずにすむ。ところが適当の時、適当な長さの休息を与えないで仕事をつゞけると渡労は次第に進んでゆき遂には仕事が出来なくなり健康が保てなくなつて、いろいろの病気を起すことになる」と誌されている。このように保育時間中に適当な休憩の時間がさしはさまれる事によつて、保母は活気を失わず明るい心情で保育を続ける事が出来るのであるが、現状は休憩に關する何等の方法も講ぜられて居ないことが調査の結果判明した。この事は更に別な立場から考へて見る必要がありはしないか。それは保母が女性のみに果し得る重要な任務を担つて出る事である。由來女性は男性とは本質的に異なる特殊性をもつて居る。それは女性の健康が極めて動搖的で恒常性に乏しいこと、個人差が非常に大きいことが指摘されるが、更に生理的な特殊性として月経の問題がある。女性の健康は月経期と共に動搖して居るもので真に健康な女子は常に順調な活動を來すものと言われ、精神的特殊性としてからだの健康を端的に精神に反映する鋭敏性をもつてゐるから健康に非常に支配されやすい。

この調査で生理休暇日の必要の有無の問い合わせし、必要とするものの三二%、必要としないものの五二%、残り一六%が無記入となつて居た。又月経障礙の訴えとして「不順」「血量の変化」「困難」があげられ、月経前後の症狀としては「腰がだるい」「ゆううつ」その他「頭が痛い」「胃腸の障礙」「貧血」などと訴えて居る。この調査に表れた三三%はこうした月経異常からくる苦痛に悩む者が含まれて居るのである。

保母には未婚の青年女子が圧倒的に多い点から考へても適当なる休養を与えて身体的发育と生理的機能の成熟が助けられるような健康管理が重視されるべきで、既婚の保母に対しても妊娠、分娩、授乳など母性としての機能を果し得るような考慮が払われるべきである。

疲劳について

本調査に於て疲劳について

一、疲劳感に属するもの

二、身体的苦痛に属するもの

三、神経的苦痛に属するもの

の三つに分類して調べた。

(1) 疲労感に属するもの、中で「朝起きるのが辛い」「通勤が苦痛である」等は特に保母の人に限つた体験ではなく、この調査を実施した時が嚴寒期と季節的な影響も多分に含まれて居ると考えられる。次に「帰宅するがつかりする」「身の廻りの仕事がきちんと出来ない」「読書不能」「家事不能」「思考力減退」「記憶力減退」等は疲労の影響が極めて大きく作用して居ることが窺われる。殆度長時間緊張しつゝけた後では心身共にぐつたり疲れ、もう何もやり度くない、考えたくない、じつとして居たい気分に支配されるが、それと似た状態に置かれて居るのでこのような緊張からくる疲労は勿論その人の体质や健康状態により影響の度合が相違し、緊張が継続的に繰返される時は疲労の回復は望まれず次第に蓄積されて、遂には睡眠が浅くなり、ぐつり眠れない状態となる。このぐつり眠れない訴えが十二時間勤務者に最も多く二五%を占め五カ年以上勤続者が二七%の高率を示して居ることは注目すべき現象といふ事が出来よう。

(2) 身体症状に属するものについては「肩がこる」「手足がだるい」「腰痛」「頭痛」等女性にありがちな症状と考へとかく軽視しがちとなるが、医学的な疾病とまでいかなくともこうした健康障礙は健康感の喪失を招き勤労意欲に大きく反映する事に留意しなければならない。また「病気にかかりやすくなつた」と答えるものに十二時間勤務者が一六%の高率を示し、更に勤続年数五年以上七%に対し一年未満及び三年から五年までが一五%となつて居る。これは永年勤続者は身体的發育が

一応完成されて安定状態を保つて居る事と、長期勤務する事の出来た健康体の所有者であつた事に起因しよう。一年未満の保母は比較的年少であるが為その身体的発育が未完成であり、身体機能全体の安定が確立せられていない為に他よりの刺戟に対し感度が高く表れるものと考えられる。

(3)神経性に属するものについては「おこりつぱくなつた」「ゆううつ」は何れも蓄積疲労に原因する固疾的傾向を窺うことが出来る。

「おこりつぱくなつた」は抑圧された情緒的不均衡が怒りの形で外に発散して均整を求めるようとするのに反して「ゆううつになる」は増々自分のうちにとちこめようとする作用をもたらすものであり、何れも保母の精神衛生と密接な関連を持ち当人の不幸である事は勿論、児童にとつては限りない不幸であり保育の精神にもどるものと言えよう。

保母の健康管理について

保母の健康管理上注意すべき点

以上私は私共が行つた保母の実態調査より現在の保母がどんな状態で働きつゝあるか、についてそのアウトラインを知る事が出来た。ともあれ保母にとって最も大切な事は、彼女自身の健康が常に最も良い状態に保たれること、そうしてこの健康は身体的な面に止

らず精神衛生と固く結びあつて存在するものであり、この最良の状態から「真に保育へのよろこび」を感じると事が出来るのである。

このよろこびがあつてこそ保育の意義が認識され、そこにはじめて周到な計画がたてられ

充分な準備がとゝのえられ、日々美しい保育が展開するのである。よりよき保育は常によ

りよき計画と準備、その蔭に秘められたる保母の熱情より生れるものと言えよう。所が今

へ、深いあこがれを抱き眞のよろこびをもつて保育に従事して居るであろうか。

それにしては余りにも保母は疲れすぎて居る。この疲れ果てた状態で常に愛情と情熱をもつゝ保育への感覚を持続する事が出来ようか。こゝに保母の健康管理がゆるがせに出来ない問題として当事者に再考されなければならないときとなつて居るのを知るのであ

これが具体的対策として、

一、勤務時間の合理化

二、保育時間の合理的な挿入

となりその方法としては種々あるが

一、保母を増員して交代制勤務を実施する

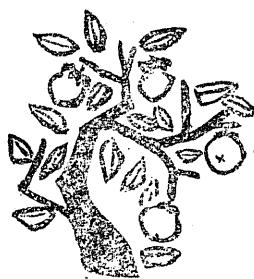
二、保育日課の内容を再検討する。

三、年間を通じて午睡をとらせる事を実施する。これにより保母の休憩時間を挿入せしめる。

以上が調査より引出した結論と言う事が出来よう。更に詳しく述べる事は保母の社会生活ないし家庭生活、またその経済的な面もなおざりには出来ない問題であろうが、私は私共の試みた今回の調査を検討して、保母が健康にして明朗な日々を迎えるために新しき創意と愛情を抱きつゝ伸びゆく者を育て導いて行けるよう、保育者自身にもよく注意をうながすと共に保育行政に携る方々の研究を切にお願いする次第である。

(名古屋市立保育専門学園教授)

幼児の遊びと保育計画(2)



飯 沼 て る

びは大分社会性が身について、「まともりの

ある遊び」をしてきました。外遊びも遊具の

奪い合いが殆ど無くなつて五六人づゝ、ある時は十人程で次々に遊びを計画して遊んでい

ました。「おいかけ鬼」「かざめかごめ」「花もんぬ」「汽車ごっこ」「さくらさくら」等

次々と朝の自由と午後の自由遊びを楽しく遊んでいました。九月の単元「お祭」は自由遊びによく現れ、積木で山車や御輿を作り太鼓の真似、果は机椅子で大柄な山車を作り棒で太鼓を叩き、手振上手にピットコ踊りをしていました。おもちゃの水鉄砲を持つて来た子、お父さんやお兄ちゃん手製の竹の水鉄砲、先生手製の水鉄砲・大小色々の水鉄砲で、「サア誰のが一番遠くへいくか競走しましょう」とこれが成功しました。夢中になつて水を走らせる

(4)

又この頃男児の水道の蛇口遊びが増え、私どもが水道の側にいない時は吃度水いたずらです。口をおさえて遠く飛ばし、頭からビンヨウになつて喜ぶ子、女児の犠牲者、そこで水鉄砲で遊ぶことを子供たちと計画しました。おもちゃの水鉄砲を持って来た子、お父さんやお兄ちゃん手製の竹の水鉄砲、先生手

製の水鉄砲・大小色々の水鉄砲で、「サア誰のが一番遠くへいくか競走しましょう」とこれは成功しました。夢中になつて水を走らせる

遊びをしたりして遊んでいました。

この頃は一人でぼんやりしている子があまり目につかなくなりグルー卜遊びが旺んでいます。女児のまことにしても二組に別れてお客様ごとに発展しこの遊びを通して家庭の生活状態がよく推察されました。ある日は幼稚園ごっこなど十人程でやつていました。私の叱る真似など実際に言ひもので苦笑を感じ得ないのです。

(5)

男女児通じて仲よし同志が長時間遊べるようになつたことは大きな飛躍だと思います。社会性が培われてきたことがよく理解出来ます。但しこのグループのメンバーが大抵決っていること、それは「知能の程度」あるいは「性格」がやゝ似ている場合が多い様です。このあたり適切な指導がいるのだと考えます。

グループ活動が、この様に旺んになり、遊びが計画的になつてきました。そこで、子供達の遊びの中の興味深い「汽車ごっこ」が、十一月の単元として捉えられた訳です。この遊びは自由遊び、単元課程の区別なく大きな興味で遊ばれました。模倣遊戯としての汽車

ごつこが運動遊戯として表現され又、構成遊び、受容遊戯と、教育効果をあげた様に思います。そして汽車の立派なおもちゃやの汽車よりも、むしろ荒縄で作つた自からが乗つて遊べるものの方が興味が長く続きました。そしてその縄がなわとびにも使われました。この様に自由遊びを通して私は子供に教えられることがたくさんあります。幼児教育者は幼児から学ぶのだと考えます。

自由遊びを通してみますとやはり男児の遊びは種類が豊富で変化があり、女児は変化が乏しい様です。これは男女の性格で当然だと思います。

(6)

さて、最後に最も大切な「自由遊び」をより子供の幸せの為に環境の設備を工夫によって与えてやることは、勿論でありますが、子供の遊びを通して心身の発達を観察して、教育効果をあげるには、たゞ捨て放しではなく、やはり、単元で生活を規正してあげるべきだと思います。この単元の影響が直接、間接にひいて、幼児の遊びは段々と教育的に進行するのだと思います。

幼児の遊びは幼児の人間性性格を形づくる重大な契機といわれています。私どもはこの

幼児期の「心理性」と、「生活」を、教育計画に多分に盛ることが、大切であると考えます。幼児の遊び即ち生活は季節や行事によつて変遷いたします。その変遷を「より発展的」に「教育的」に「教育技術を存分に駆使して効果をあげたい」と思います。即ち幼児の身体的、精神的生活コアをどう把握しこれを助長するかに日々の教育指導がなされているのだと思ひます。幼児が生長すると申しますがたゞ漫然

でなく、これを、教育計画にはつきり、系統づければならないと思うのです。こゝに具体的な教育を持ちたいと思ひます。それ故私の園では「教育課程」を、重大視しております。「自由遊び」の、自然な姿に指導の「選択課程」があり、これから中心の「単元課程」が、産まれ、そしてそれを充実させる為に、基礎指導の「基礎課程」が発案したのであります。けれども飽く迄も「幼児」でありますから、幼児期を尊重し幼児の自然に立脚した保育の課程カリキュラム以前のカリキュラムがあるのではないかと思うのであります。

(筆者は館山市立北条小学校附属幼稚園教諭)

(44頁より)

約束や、保母との連絡で、なるべく少くする様注意しましよう。

○カード式の連絡表を渡して、手洗い、うがい、お小遣、お手伝い等の、日々の日記を赤丸、青丸、黒丸などでつけましょ。

う。

△

△

ピカ～星や、サンタクロースの歌、たき火、よまわり、なわとび、お正月の歌や、リズム遊びや、動きのリズムで、毎日遊んだ事が、一年中を子等のために生きつゞける勤労母性のレクリエーションもかねて集うクリスマスの宵は、司会者によつて、よろしく構成され、子等歌い母も遊ぶという楽しい一時になります。けれども飽く迄も「幼児」でありますから、幼児期を尊重し幼児の自然に立脚しているそれは、幼児の胸に喜びを植え、お正月を待つ嬉しさに高まつて母の言葉に、素直に従い得るチャンスともなつて、新しい年を迎える夢を見る事でしょう。

はは児幼の會

日光を求める



德久孝子

◆晴れた日の保育室を庭へ◆

お天気の日は出来るだけ屋外保育をした。狭い室内にばかりじこもらずに、粘土製作も、お絵かきも、お話や、唱歌や、リズム遊びは勿論のこと、背庭で出来る。ピアノがなければ歌の指導が出来ないという様に考えないので、晴れた空に向つて先生が歌えば幼児も喜んで歌う。屋上の片隅で無心にお話をきく幼児の頭の上を日が暖かく照らす。お弁当も勿論お庭で。……それどころか、「今日は遠足だね！」と大喜びだ。……食後の一人休みに屋上で背横になつて高い空を仰ぐのもいい、気持だ。白い雲の見つけっこをしたり、雲のいろいろな形を話しあいをする。夏に見た入道雲や夕焼の色も、更めて思い出に浮ぶ「記憶觀察」とでもいう訳か。

◆小園外保育◆

土のある花壇といつても猫のひたいのようになせまく、コンクリートの堅い都会の幼稚園ではつとめて園外保育を行つて日に浴し土に親しませたい。秋の間登園の途中に栗がはせていたり、ばつたが飛んでいる郊外の幼稚園児はなんと慮まれていてる事かとつくぐ思ふ。園外保育といつても乗物により遠方へ出

ることもよいが、近くの小公園、空地等で適当な所があれば出来るだけ利用したい。従来幼稚園の遠足というと春と秋に一回位、しかも、附添のかげに幼児がいるというような物見遊山的なものときまつっていたが、そういう大がかりのことばかりではなく、保育室を園外に延長するだけの園外保育を数多く行いたいと心がける。但し目的に着いてすぐ解散自由行動というだけでは園外保育といえないと心がける。附添が無ければ、自分的事は自分で責任をもつ。人と協力して行動をする。

- ・また、交通機関による躰もいろいろしたいし、道の歩き方、乗り物ののり方、車中の作法
- ・公共交通物を大切にする習慣もつけたい。
- ・食事のしかたについての指導等を十分に行なう事は、園外だけに一層大切である。

今の幼児が成長の曉には、公園や遊覧地が紙屑や食物の食べ残りで汚れるというような事が絶対なくなるよう徹底させたい。私共の園では園外保育の時、お菓子の共同購入を行つてゐるが、非常に喜ばれている。各自が家庭で購入するとキャラメルにチョコレートに、と相当の出費がかかる。又少くては可愛相だという親心からか、あれもこれも

と持たせて來るので、食べ残して持ち帰つた

り又食べ過ぎる心配も起る。人の幼児の遠

足の為に他の兄弟の分も購入したり雨で延期

の時は二重の負担にもなる。園で共同購入すれば、僅か一人三十円位で適量のお菓子と

果物が用意できる。雨で延期になつた時は防

湿剤を入れて仕舞つておける。第一先生も、お友達も同じお菓子をいたたくというので、不平も起らないし羨望も起らない。幼児達は二三日前からお菓子の袋を作つたり、それに銘々好きな絵を書いたりして、それがまた一つの楽しみにも、お仕事にもなる。

園外保育には、いろ／＼の有益な、生きた見学やいろいろのことがその時々のカリキラムによつて行われるし、園に帰つてからも或は共同製作に、或はごつこ遊びに、十分に発展させていつて、幼児の思想が豊かになるよう後にぐりしたい。先日或る先生は、絵の指導で最もよい事が度々園外保育を行うことでできると言われた。

秋のことだが、私共の園で虫とりをした折のこと蚊やり線香の空箱等で、めい／＼虫かごを作つたりして前から楽しみにして居たがその日は一人で廿四もとれて大喜び。オートが箱をこわして飛び出すといふ経験ができた。又、園外保育の翌朝早く來た輝ちゃん

が、目を輝かして飛んで來ての報告に……

「先生、僕の虫、きのうの夜ないたよ」

「そう、どんななき方したの」

「チヨン／＼スイツチヨンつてね。僕びつくりしちやつたよ」

その顔のなんと嬉しそうなこと。

「そう、よかつたわね、ちやあ昨日のバッタさんの中に、きっとキリギリスがは入つていたのよ。どんな虫がないか分つた」

「うん、お腹が太つていて、ヒゲもあつたよ」

「今晚もきつとなくよ。僕、お母さんに貰つてキウリあげたの」

「そうね、大事に銅つてあげると毎晩なきますよ」

輝ちゃんは自分のとつた虫だけにどんなにか楽しいことだろう。

又、幼稚園のお室に飼つている虫の中へ誰かが、「かまきり」を取つて来て一しょに入れた。すると間もなく男の子二三人が悔慨した様に飛んで来て……

「先生、大麥々々かまきりがバッタを食べちゃつたよ。かまきり追い出してしまおう」

「そうだく、追い出そう」
やがてかまきりは庭になげ出されていた。

「先生、虫は鳴く時に羽根を動かすね」
こんな報告もして來た。幼児達は必ずしも鳴かせる積りでなかつたから、色々のことが発見になる。

◆ 小運動会 ◆

行事としては秋に必ず行われる事と思うが年一二回の大行事としてばかりでなく、行っていたのよ。どんな虫がないか分つた」

「うん、お腹が太つていて、ヒゲもあつたよ」

「今晚もきつとなくよ。僕、お母さんに貰つてキウリあげたの」

「そうね、大事に銅つてあげると毎晩なきますよ」

輝ちゃんは自分のとつた虫だけにどんなにか楽しいことだろう。

又、幼稚園のお室に飼つている虫の中へ誰かが、「かまきり」を取つて来て一しょに入れた。すると間もなく男の子二三人が悔慨した様に飛んで来て……

「先生、大麥々々かまきりがバッタを食べちゃつたよ。かまきり追い出してしまおう」

「そうだく、追い出そう」
やがてかまきりは庭になげ出されていた。

行事としては秋に必ず行われる事と思うが最近方々で行われているように、親子競争、親子遊戯などもして、親が子供と二つになつて楽しむ機会を作るのは極くよい事と思う。お父さんも走つた。お母さんもやつたといふ事は、自分達の運動会も皆も喜んでくれたという意味で、幼児にとつてどんなに嬉しいことかしない。

幼稚園でする競技種目も、輪割りとか球入れとかのいつも同じ事ばかりでなく、先生の創意工夫によつて色々と新しいものを考えて行きたい。その一二の例として、

『僕達の顔』というのがある。幾組かに別

れ、リレー式で馳けて行つて、向うに張つてある紙に顔を書く競技。一番の子は思い切り

大きく顔のりんかくを書いて来る。二番目の子は片方のまゆ毛、四番目の子は目というようになると、色々の顔が出来上つて大喝采。

『お城が出来た』といふのもある。

大積木を運んでいつ家を作る競技。積木

の数をきめて、大きいのを下にする約束をしておけば、色々の形になつて面白い。

『走れ／＼電車（又は汽車）』

ベニヤ板と細い質で電車（又は汽車）の枠を作り、中に二人づつは入り、中から両手で持つて走りつこをする。或は底をつけ、車をつけて押して走つてもよい。運動会がすんだら乗物ごっこ遊びに使える。その日のよびものに、

『みのりの秋』といふのもある。

かゝしの胴体を作つておいて、笠をかぶらせたり、顔をかいたり、弓を持たせたりして滑稽な案山子を作りあげる競技。乗物にしても、案山子の材料にしても、前から幼児の手で作らせることが出来るし、この他一寸考えれば色々あると思うが、なるべく、幼児の生活に近いものの中から取材していきたい。

大した新案でなくとも、幼児は大喜びだ。れた幼児達の紅い頬だ。

先生の喜びは、きょう一日戸外の日光に恵ま
（東京都番町幼稚園教諭）

評

山下俊郎教授新譯

ゲゼル著『乳幼兒の心理學』を薦む

倉橋惣

三

予てから、我国の保育者諸君には非薦めたいと思つていたゲゼル教授の『幼児の心理学』が山下俊郎君によつて新訳せられた。我国保育界のために、真に欣びにたえない。此の書が最も權威的のものであることは、世界の学界の広く推称するところで、保育者必読書中の必読書である。

七百廿頁の長篇であり、訳者の労大に多としなければならぬ。先づ『乳幼児期の精神發達』の通説を第一部とし、以下第二部『精神發達の段階』第三部『兒童における個性の研究』を、各章千円）

小節に亘つて詳説し、更に『發達検査の記録と整理』が添えられてある。流暢する全訳である上に、ゲゼル兒童研究所特

有の兒童研究上の指導的文献とされてゐる。『写真による就学前の兒童の行動記録』、『検査設備と用具』『検査室の一方視設備』『ニール兒童研究所指導保育室の一方視設備』の鮮明なる写真が、原書通りに挿入されてある。我国の此種研究者のためにも、必ずや画期的好参考となるにいまい。此の堂々たる學術書が、

幼稚園、保育所に必備せられて広く精読せられんことを心から薦める。

（社団法人新教育協会発行。東京都中央区銀座一丁目大日本圖書株式会社発売。定価金毫



英語國民の一大宝庫

(マザー・グースに就いて)

松原至大

幼児の保育ということに关心を持つものが、片時もなおざりにすることのできないものの一つに、幼児のための歌がある。

童謡という言葉を、そのまま使つてもよいであろう。今までもなく、これは全世界の民族の間で、まちがいなしに言えることである。従つてその国の風俗習慣によつて、さまざまな内容と形式とがある。しかもいろいろと推移、変遷、消滅、発展の跡が認められる。そして永い年代の間に、価値あるものばかりが残されて行く。内容的にも、表現形式にも、もう一つ芸術品としても。

こうした意味から、私たちが最も接近している英語國民が永い伝統をもつて誇り得るものは、「マザー・グース」童謡集であろう。この度齋橋先生が發意され、戦後わが國の幼児のために、「キンダー・ブック」十一月号誌上で、この尊い童謡集を再検討されたのは、まことに時宜を得たことといえよう。その仕事の一員として、私も参加させて頂いたことは、大きな喜びである。私は同誌の解説欄で、「マザー・グース」の由来

その他を大略述べたが、ここでもう少し詳細に記させて頂く。

私たち児童文学に専念するものが、イギリスの児童読物史として信頼する好書に「チルドレンス・ブックス・イン・イングランド」というのがある。著者はF・J・ハーヴィ・ゲートン氏で、発行所はケンブリッジ大学出版部である。私が持つているのは、一九三二年版である。この書は、今日に至る五世紀にわたる児童の社会生活を観察した成果である。その第六章「フレアリ・テールとナースリ・ライム」を見ると、「マザー・グース」という名の出所が理解される。「童話と童謡」の章と訳してもよいであろう。

ゲートン氏の説くところによると、童話と童謡とが、児童図書館の真に自然な重要品となるまでの過程を物語る歴史は、なぞりと念入りな迫害下における力強い自己保存の記録である。児童のためのものならば、なんでも図書にしたいという夢を持つていたと伝えられるロンドンの出版業者ジョン・ニューベリー(一七一三年——六七年)さへも、身近にあつたこうした

材料には、あまり心を注がなかつたというのである。だが、彼は童話ものに比べて、童謡の方は、少からず手がけたといえよう。救い手とか、独創的な探し手であつたと言われないにしても。これはニユーベリの個人的な考による努力ではなくて、当時の社会現象といえるであろう。

例えば、「長ぐつをはいた猫」とか、「月をとぶ牝牛たち」とか「パンパリのゆり木馬」などというわが国でもよく知られた童話は、十八世紀の知識層とも思われる中流階級の興味をほとんどわかつ得なかつた。従つてこうした出版物は、まだ「商業企画」とはなり得なかつたのである。ジョージ一世からジョージ四世に至る間の人たち、すなわちジョージアンたちには、「敬意をはらうべきもの」ではなかつた。百姓たちの馬鹿ばなしと見なされていたのである。従つてそれは活字に組まれる名聲も持てず、チャップブックと名づけられて、行商人が読み売りした安本さへ、なかなか手口にはいらない地方で、人の口から口へ語り移されたに過ぎなかつた。十七世紀時代には、モーラリストたちからいやな目で見られ、十八世紀には、ルソー学派の人たちからは、むずかしい顔をされた。

こうは言うけれども、童謡と童話のいすれが早くプリントになつたかというと、童話の方であつた。ふしきなことである。その理由は、フランスの宮廷から、イギリスの児童たちの手に渡つてきただのである。もしこうしたアリストクラティックな贅同というもののがなかつたら、それはフランスに残されたままであつたかもしれない。フランスではその物語が持つ特異な内容が、在来のみやびたことに対してひなびたという一つの口実になつたのである。ひなびたということ、田園詩的であるとい

うこと、これがネオクラシカルなモデルとして、時の皇帝ルイ十四世の下で流行となつた。百姓たちがその子供たちにあからさまに語り伝えた物語が、みやびたサロンのつれずれに、躊躇をかけられた。そして多くの作家が、競つてそれを文学にまで持ち上げた。その中でも最大といわれる作家は、シャルル・ペロー（一八二八年—一七〇三年）であつた。なぜ最大であるのかといえば、彼は飾るところが、少なかつたからである。これがダートン氏の説くところである。

ペローは千六百九十八年に、これまでに発表したものまとめ、パリで出版した。書名は「イストワール・ウ・コント・デュ・タン・バッセ、アベック・デ・モラリテ」というのであるが、これを今日の言葉でいえば「教訓昔ばなし」である。この五巻目が、童謡集であつた。これはペローの子、P・ダマンクールの作と伝えられる。口絵には、糸をつむいでいる一人の老婦人が、三人の子供にお話をしているところが描かれて、そこに有名な「コント・デ・マ・メール・ロワ」、英訳して「テール・オブ・マザー・グース」の文字が記されている。

これに対応して、アメリカの研究書にはボストンのトーマス・フリートという人が、千七百十九年に「マザー・グース」のメロディを伝えていると記したものもある。だが、これには確固とした年代的な論拠が見出されていない。

とにかく「マザー・グース」の名を持つた童謡集を、最初に出版したのは、やはり前に記したジョン・ニユーベリである。千七百六十年のこと、当時彼はロンドンのセント・ポール寺院の境内に住んでいた。年表を開いてみると、わが国の宝暦十一年徳川十代家治將軍の時代（一月には江戸の大火があつた。アメ

リカ版はそれよりもおくれて、十八世紀の半ば過ぎ、マサチューセッツ州ウォースタ市のイザイヤ・トーマスの手になつた。どちらも収められた歌の数は、五十一しかなかつたということである。五百を越える今日の一大集成となつたのは、長い間いつとはなしに一つ一つ加えられて、大人の生活とも、子供の生活ともはなれることができなくなつたからである。

私どもが「マザー・グース」の名は、よく知つていて、数多

いその原書にあふれている挿絵に心をおどらせても、それほどに歌そのものになじみ得なかつたのは、言うまでもなく風俗習慣がちがつてゐるからである。しかしながら今日は、世界が一

つの国となる方向に、あらゆる民族が手をとりあつてゐる。それに伴つて文化の交流が日に日に度を増してゐる。この時にあつて、英語国民があらゆる形において人間性の美しさ、正直さ、明るさをほこるための大宝庫ともしてゐるこの一大集成の中から一つでも多く味つて、自らのものとするようにつとめることは、私たちの大きなプラスと信ずる。

私はこの度のよき試みにあつて、幼い人たちのために、で

きるだけ理解しやすくて、香の高いものを選んだ。その中から更に倉橋先生が豊富な体験によつて十数篇を選ばれたのである。私がよりどころとした原書は、ロンドンのジョージ・G・ハーラップ版「マザー・グース」と、ニューヨーク・マクミラン版「エブリ・チャイルズ・マザー・グース」の二冊である。マクラミン版はキャロリン・ウェルズ氏の編になるもので、巻頭には、

「あらゆる年の子供さんよ、
どうぞこのページをお読み下さい。

ここには古いお友だち、
新しいお友だちがいるのです。」

とうたいた出した序詩が掲載されている。それには彼の地のおばあさんから、おかあさん、おとうさんへ、それから子供たちへ伝えられて親しみのある「マザー・グース」の中の主人公たちの名が、いくつか並べられて、「こういう人たちが

あなたを待つて いますよ。

だからこの本を

おしまいまで 読んで下さい。

音調の美しい歌を読んだり、

面白い絵を見たりすると、

その見事さにおいて、楽しさにおいて、

またはお役に立つことにおいて、

マザー・グースに勝る

今日の教えはないと、

みなさんはおつしやるでありますよう。いすこの國土にあつても、風土にあつても、むかしと今とを問わず、

マザー・グースの歌に及ぶ

音調の美しさは、ほかにはありませんよ。」

幼児の 信仰教育に就いて

高崎能樹



一、幼児の軽信性

幼児は、母の崇めるものを崇め、母の慕うものを慕い、母の仕えるものに仕え、母のひれふすものの前にひれふします。……そして崇拝対象は何であろうとかまいません。ですから母が迷信に凝つていると幼児もその迷信になじみこんでしまいます。

こうした【軽信性】を本格的な正しい宗教心の養成に役立たしめることもできれば

反対に幼稚な原始人の宗教形態逆行させることも出来るのであります。

元来幼児は、その環境に順応する驚くべき力を持っています。それで幼児に期待することはそれより先きに環境に期待せねばなりません。もしも最悪の環境に置けば、野獸に等しいものに順応してしまいます。

昔から日本の母親たちが言い伝えているよう『ツの字の付くまで氣をつけよ』といふことばは確実な真理で、數え歳の九ツまでに一生涯の生活型は決定してしまいます。

先頃世界の話題となつた『七才頃まで狼に育てられた人間の女兒を、後九年間孤兒院に収容して、院長夫妻が懇切に育てて見

ても、全く狼の習性になじみ込んでいたものを、人間の生活に育て直すことは至難のことである。七年目によく四十五の言葉しか覚えなかつたし、また知能も能力も白痴の境を脱し得なかつた』という、印度であつた事実、(『兒童心理第三卷第九号に本田文夫博士が執筆紹介』)は幼児期の環境の影響が如何に重大であるかを明示しております。

こういうわけで私は、幼児の信仰教育は第一に家庭環境の聖化が必要であり、それから社会環境(特に日曜学校及び幼稚園の宗教的雰囲気)が重大であり、更に豊富な宗教的文化財の中に育てることが、幼児をして自然に信仰を把握せしむる最もよい近道であると信じます。

幼児の軽信性……を認めるからには、それだけ責任をもつて幼児の環境から迷信や原始的宗教を避けねばなりません。……私は、あくまでも教育の最後の目的である、『人格の完成』を容易ならしむる力ある宗教を撰ぶべきであると信じます。そして、そのための絶対条件は『崇拝の対象が完全な人格的実在の神』でなければならぬことです。

完全な人格的実在の神……とは、簡単に申しますと『全知全能至聖至愛の神で、私共と親しく交り得る神』のことです。基督教に於ては『主イエスキリスト』がそれであります。……無論基督新教では『三位一体』といふ教理があつて『天地万物を統べ治め給う神の権威』と『人間の罪を贖い聖め給う犠牲愛のキリスト』と『常に信じ頼る者を導き助くる聖靈の力』とが一体となつてゐることを主張いたします。しかし私共はその全部をキリストの人格のうちに認めめて『キリスト中心主義』で進むのであります。

従つて私共の信仰教育は『キリストを子供へ、子供をキリストへ』の標語を一筋道として進むことにいたします。

一、幼児の信仰教育

〔その一〕 幼児の被暗示性

嬰児時代は肉体的暗示と云つて、正確、秩序、自己抑制などの良習慣を授乳と睡眠と運動を一定時間に正確に行うことによって規律生活を身につけてやることができ、そして之が他日キリストの意志に服従する生活の土台になることは確かであります。このように幼児の信仰教育は、家庭の信

す。

けれども、宗教情操の教育にもつと大きな効果をもたらすものは、母親の祈りに燃ゆる語りかけや、嬰兒を抱いての主なる神に対する敬虔な態度のいのりであります。……無論嬰兒にその意味や内容は理解できません。けれども嬰兒の不思議な感度性は母親の眞実な宗教感情を……また祝福心を悉く吸収いたします。

之を『被暗示性』と申しますが、幼児になるとそれが更に著しく幼児の言行を左右するようになります。……故に幼児の信仰教育に、必ず第一に留意せねばならぬ点は、幼児の環境を信仰的な雰囲気にしてすることです。

両親が家庭を神の宮として、毎朝礼拝を守り、家族のために祈り、隣人を愛し、勤勞を尊び、キリストの支配が家庭内にゆきめぐらるようにすることです。……結果、キリストを家長として、夫も妻も子供たちも皆、その家長に仕え、家長の守護と指導とを受け「家憲」も「家風」もすべてキリストの精神を現わすようになることであります。

仰的雰囲気が第一義で、茲に重点が置かれなければ徹底いたしません。それで私は、『幼稚園の經營』を家庭と密着させ、且つ家庭の聖化に全力をそそいで参りました。(實際私は幼稚園設立以来母性教育に全力をそそいで参りましたが、その効果は著しいものがありました。)

次に社会的環境としての幼稚園に於ける努力点を申し上げましよう。……ここでも矢張り第一に努力しなければならぬことは『信仰的雰囲気』をつくることであります。そして幼児の被暗示性による教育効果を求むることであります。

全職員が、キリストを中心として和をもつて結びつき、幼児保育の尊き使命を自覺して必ず幼児の教育を完うする熱意がなければなりません。……職員間に分裂があり憎み合いがあり、各自の勝手気まゝがありますと、必ず園児たちは安定感を失つてらつき出し、喧嘩が多くなったり、怪我が多くなったり、困る問題が頻発いたします。

不信仰な仲間は、みな利己的で、競争意識のみ強く、軋轢が多く、虚栄虚飾で優越しようとのみあせり、偽謗と偽裝とが巧み

になつて表面を繕うことに専念します……

そしてその雰囲気は幼児の仲間に敵意を醸成いたします。ですから楽しい協力的態度は見られなくなります。神に対する宗教情操の正しき現われである【敬虔】と【憧憬】と【感謝】と【信頼】と【善意】とが職員間にあれば、生活を共にしている幼児たちに対しても【尊敬】と【理解】と【感謝】と【信頼】と【愛と親切】とが向けられます。……そして、これ等が皆よき暗示となつて彼等を明朗に向上させることになります。

斯うした全体的な雰囲気が、個々の教諭の態度をも決定し、また更に個々の園児の

生活態度をも決定します。そして全体が一團となつて【自信】をもつて樂觀的に努力する」という氣風が生れて参ります。……」これだけでも私は、その幼稚園は成功であると信じます。

〔その二〕 幼児の模倣性

「幼児は真似の天才である」といつた人がありますが、全くその通りであります。この模倣性は被暗示性と密接に結合して、環境に順応する大きな力となります。満三年頃は反射的模倣が盛んで、無意識何でもかでも真似ますが、その後はやゝ意

識的に楽しんで真似」と遊びに没頭いたします。『ごっこ遊び』が幼児の遊びの大部分を占めるようになるのはこの為であります。

猫の真似、犬の真似、鶏の真似のような動物の生態をまねる遊びを初め、売り屋ごっこ、銀行ごっこ、郵便局ごっこ、お祭りのおみこしごっこに至るまで、社会的現象をまねる模倣遊びが、幼児たちには盛んに個人的にもまた仲間を組んでも巧みによく遊びます。

けれども子供の模倣に就て精しく研究した学者の報告によると、満三年児は百分の八十五が大人の真似をして、子供が子供の真似をするのが百分の十、動物の真似をするのが百分の五であると報じ、満七年児は大人の真似が八十、同じ子供の真似が十、動物の真似が十と報じています。

す。

の宗教的な美しい感覚に融けこんで、この歌を子供たちと共に歌つたり、歌の構想を小劇にして遊んだり、またごっこ遊びに活用したりしたら、宗教情操の教育にどんな大きな効果もたらす事かと期待してやみません。

私はよく、子供がお人形遊びをしている場合に、子供はお人形のお母様になりますして(また先生にもなります)子供の幸福をキリストに祈つたり、また祈りのしつけや、礼儀のしつけの為に懇切に教え導いている姿を見て涙を催すことがあります。

また子供たち同志で、リスの家族ごっこをして、お母さんに「怪我して臥床している愛児」を看護しています。お父さんは栄養物をさがしに出かけます。兄さんはお薬をいたゞきに病院にゆきます。お母さんは静かに金髪を折りました。やがて多勢の小鳥たちがお見舞に来て小りすの好きな歌を歌つて慰めてくれます。夕方になつて小鳥たちは帰つてしまひます。最後にお父さんも帰り兄さんも帰つて来て、みんな小リスを囲んで感謝のいのりをさげて夕ご飯をいたゞきます。……で終りました。そこに

は終始一貫宗教雰囲気が充ちているのに私は驚きました。

〔その三〕 幼児の想像性

幼児が、自然に、思いのままに遊んでいるのを観察したり、道を歩きながら語つて、いる奇想天外なお話を聞いたりいたしますと、自由な束縛されない想像が、子供の生活の最も重要な位置を占めていることに気付きます。

幼児は空想を恣にすることが特徴で、全くの小芸術家であります。そして私共大人を困惑させて少しも矛盾をも不都合をも感じないことすらあります。……ある時、園児（五才の女児）が私に『わたしのうち三階よ。そしてピアノが三つあるのよ！ 好いでしよう』と真面目な顔で申しました。私は彼女の家を知っていますし、これは空想と眞実との区別がつかなくなつたものと直ぐ気付きましたので『好いですねえ。それではお空の鳥たちを招いて音乐会をしましよう』と空想談の仲間入りをして更に音乐会の模様などをも童話風に面白く語つた後『千代子さんが、お父様お母様をだいじにしてあげると、お父様お母様が喜んで、今の一階のお家を三階にして、ピアノを三

つでも四つでも買つて下さるでしょう』と語つて、空想をよい願望に代えて楽しい夢をやぶらしく置きました。

この幼児の想像性を宗教的に伸ばして参りますと、幼児は目に見えぬキリストとも楽しく交つたり、また天国の花園にも遊んだり、神の喜び給う愛の人にもなつたり、聖い人物にもなつたりいたします。

イング僧正の小さな娘のボウラが病死した時、その看病をした看護婦は『お伽噺の中に出てくる王女だと思い込んでいる彼女の生活は、美しい想像の王女そつくりの生活であつた。そしてすべての者を愛し、どんな時も王女としての態度を失わなかつた』断食の時も「私は王女様なんだから、ひもじいなんて思つてはならない」と語つた』と思ふを語つたということがありますが栄光の主に仕えている幼児の想像は決して劣等感に捕われません。

〔その四〕 聖書の活用

幼児がお話を聴いたることは非常なものであります。情操教育はよいお話を聞かせることによつて完つされる。……と申しても過言ではありません。

今一つ幼児期に発達した「語彙」の数が

将来の精神生活を決定する……ということも本當であります。これからまた「良き品性は宗教的また倫理的なお話をよつて養われる」ということも本當であります。

こういう理解から私は『聖書のお話』に

重点を置きます。そして最初に『旧約聖書』三十三の主題に撰んで「神に対する信頼心と感謝心」とを養います。そして一主題を二回にでも三回にでも分けて語ることが出来ますから回数から見ると二倍にもなります。それからキリストの物語を七十六回にわけて語ります。そしてキリストに対する愛慕とあこがれの心を強く養います。宗教的文化財としても、これ程貴重なものは他にありません。そして私は毎年聖書のお話を「自分の信仰の告白」としていたしますが、三年保育の子供は卒業までに三回聞くことになり、そして彼等は皆「私たちのキリスト……否私のキリスト」にしてしまいます。

この他に私は『キリストとの個々の交りとして個々のいのり』を育てるごとに努力いたしますが、それはまた他の機会に申述べることにいたしましよう。

〔筆者 阿佐ヶ谷幼稚園長〕

終戦前後の長崎保育界から

—復興の現在概要—

荒木嘉弘

倉橋憲三先生よりの御指名を受けました

で、不敏も顧みず書かせて戴きます。長崎市を中心とした保育状況の概要と、活潑な現在の復興までの経緯を述べます。

先ず、原子爆弾の被害から申上げましよ

う。

昭和二十年八月九日は晴天一点の雲もない暑い暑い日でした。午前十一時爆音の響に次

で同二分、閃光一線、全長崎は崩壊せられ落

下中心地より七、八百メートル以内は即座に発火大火となり千米位の場所も相当の熱気を受けている(七千度)為に延焼早く見る見る焼野原と化して行きました。

負傷者の右往左往する者数え切れず死傷七万三千という多数の事とて頭顔手足は焼けただれ、目玉の飛出したような様子の人もあり衣類はずたずたに焼け切れ、或は燐風で吹き

飛ばされ裸体の者多く、血潮淋漓と流れ乱れて目を覆わしむるものがありました。

隣町村よりの救援隊に夕方炊出しを受ける始末。

悲しき哉、城山町は中心より五、六百メートルあり、城山幼稚園主下川龍爾先生御夫妻は御孫様と共に倒壊園舎の下敷となり即死せられました。園舎も一物も残さず(コンクリート)

の門柱や、水道の鉄管の焼けたのが残つたま

り)全焼しました。信愛幼、純心幼、浦上養育

園は、城山と方向がやゝ異つてゐるが中心地

から千米以内の近距離のため全焼外、聖母幼、肥長幼、慶華幼、長崎幼共全焼に遭われまし

た。大破したのが玉ぞの幼、稻佐幼、小破清心幼、桜丘幼、女専附属保育園であります。

官公衙大会社の全焼全壊は数え切れません

が、学校関係だけ列記しますと

長崎医大全焼を初め県立工業、同瓊浦中学

市立商業、信愛、純心両高女、三菱工業坂本

町別館、小学校では山里、練座、城山、稻佐

朝日、西浦上、西坂全焼

市内各幼稚園共空襲が頻繁なので夏の幼稚園を一切せず、休園でしたため、園舎の損害は多かつたのですが、人の死傷数は少なくすみました。

八月十五日の日まで空襲が続きましたので家屋の修理などの事ではありません。米軍の上陸さえ伝えられ、市外へ避難する者が多く、町はひつそり閑となりましたが、十

八日頃からぼつぼつ帰宅する人が増して、ど

の家も先ず家修理に着手です。その頃暴雨の手不足に皆な大そう困らせられました。

私共の玉その幼は西方八〇メートル所で（原爆火災の延焼が迫りましたが）喰とめ得ましたので焼失を免れたのですが、さあ修理に取掛らうとしても、天井は全部落し、壁は破れ、戸障子はどこへ飛んだか散つて、ガラス粉が一面砂をまいたように散らばつて足のふみ入れが自由でなく、電燈瓦斯水道は破損で使用不能、疎開した解体家屋古材料の持合せで倒れかゝりの家を起して住めるだけの応急処置を施しました。幸に停戦のため上陸待機中の船員多数が近所におつて相談した処、快く加勢して下さつたので助かりましたが、原爆で負傷はなかつたのですが、不良瓦斯を吸つた者は下痢患者となり、又は髪がぬけ落ちる者続出し、日を追つて、五日目から十日、一ヶ月二カ月と死亡者が次々に運ばれ、十月私宅家族五名全部下痢にかかり、三週間程病床に苦しめました。全員床について困る時に、長男が復員して、一人で医師通い、炊事、看病をし助かりました。又、幸い全快して死は免れました。

やつと十二月一日、再開園の新聞廣告を出しました。何分園児が一切そのまゝ（多少の破損はあり）運動遊具が全部無事でした（昭

火災の延焼が迫りましたが）喰とめ得ましたので焼失を免れたのですが、さあ修理に取掛らうとしても、天井は全部落し、壁は破れ、戸障子はどこへ飛んだか散つて、ガラス粉が一面砂をまいたように散らばつて足のふみ入れが自由でなく、家財も壊れたり、倒れたり、支柱も傾斜していて、建具も残つたのは開閉が自由でなく、電燈瓦斯水道は破損で使用不能、疎開した解体家屋古材料の持合せで倒れかゝりの家を起して住めるだけの応急処置を施しました。幸に停戦のため上陸待機中の船員多数が近所におつて相談した処、快く加勢して下さつたので助かりましたが、原爆で負傷はなかつたのですが、不良瓦斯を吸つた者は下痢患者となり、又は髪がぬけ落ちる者続出し、日を追つて、五日目から十日、一ヶ月二カ月と死亡者が次々に運ばれ、十月私宅家

族五名全部下痢にかかり、三週間程病床に苦しめました。全員床について困る時に、長男が復員して、一人で医師通い、炊事、看病をし助かりました。又、幸い全快して死は免れました。

四月始め百八十名、在籍者が七月には疎開その他で四十名程になつていて三十七名員多數が近所におつて相談した処、快く加勢して下さつたので助かりましたが、原爆で負傷はなかつたのですが、不良瓦斯を吸つた者は下痢患者となり、又は髪がぬけ落ちる者続出し、日を追つて、五日目から十日、一ヶ月二カ月と死亡者が次々に運ばれ、十月私宅家族五名全部下痢にかかり、三週間程病床に苦しめました。全員床について困る時に、長男が復員して、一人で医師通い、炊事、看病をし助かりました。又、幸い全快して死は免れました。

昭和二十一年四月には直に百名に迄復帰しました。

全焼の幼稚園は勿論開園の見込み立たずになりました。

昭和二十一年四月から市立長崎幼稚園は市内今龍町の大音寺の一室を借用して保育を開始、市立桜丘幼稚園は大修理ですみ、保育開始稲垣、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高畠スミ、笠森としの諸氏が創立され、戦時中被害で一時休園戴、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高畠スミ、笠森としの諸氏が主役で活動されたのですが、保育園側は、夏季の保育講習会に一部参加される程度で殆んど幼稚園のみの保育会に見えました。

四月始め百八十名、在籍者が七月には疎開その他で四十名程になつていて三十七名員多數が近所におつて相談した処、快く加勢して下さつたので助かりましたが、原爆で負傷はなかつたのですが、不良瓦斯を吸つた者は下痢患者となり、又は髪がぬけ落ちる者続出し、日を追つて、五日目から十日、一ヶ月二カ月と死亡者が次々に運ばれ、十月私宅家族五名全部下痢にかかり、三週間程病床に苦しめました。全員床について困る時に、長男が復員して、一人で医師通い、炊事、看病をし助かりました。又、幸い全快して死は免れました。

昭和二十一年四月からは直に百名に迄復帰しました。

全焼の幼稚園は勿論開園の見込み立たずになりました。

昭和二十一年四月から市立長崎幼稚園は市内今龍町の大音寺の一室を借用して保育を開始、市立桜丘幼稚園は大修理ですみ、保育開始稲垣、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高畠スミ、笠森としの諸氏が創立され、戦時中被害で一時休園戴、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高畠スミ、笠森としの諸氏が主役で活動されたのですが、保育園側は、夏季の保育講習会に一部参加される程度で殆んど幼稚園のみの保育会に見えました。

長崎市保育会

二カ月と死亡者が次々に運ばれ、十月私宅家族五名全部下痢にかかり、三週間程病床に苦しめました。全員床について困る時に、長男が

復員して、一人で医師通い、炊事、看病をし助かりました。又、幸い全快して死は免れました。

昭和二十一年四月からは直に百名に迄復帰しました。

全焼の幼稚園は勿論開園の見込み立たずになりました。

昭和二十一年四月から市立長崎幼稚園は市内今龍町の大音寺の一室を借用して保育を開始、市立桜丘幼稚園は大修理ですみ、保育開始稲垣、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高畠スミ、笠森としの諸氏が創立され、戦時中被害で一時休園戴、副会長に助役と早田隆次（長崎市立幼稚園長）幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高畠スミ、笠森としの諸氏が主役で活動されたのですが、保育園側は、夏季の保育講習会に一部参加される程度で殆んど幼稚園のみの保育会に見えました。

昭和十八年戦時託児所併設の勧誘が県よりあり、併設したのは信愛幼稚園だけで終戦後は信愛は保育所一本になり、玉ぞのは幼稚園一本となりました。

下川氏亡きあとは、早田、高畠、伊藤、向井及び笹森各女史も第一線を退かれ右何れも御健在です。

各園より一名宛代表者を出し互選により世話を定め（目下荒木「玉ぞの幼稚園」がその役）合議制でやつています。

昭和二十四年には、長崎県保育会も復活し、

長崎学芸大学附属幼稚園主事松島主事を会長に、

佐世保比良幼、有浦俊一、長崎桜丘幼大場久子園長副会長、県下を五支部に分ち、長崎市保育会は結局長崎県保育会の支部となり支

部長に荒木就任、十五年は会長に松岡主事就任され、島原で総会と遊戯講習、昨年は平戸

幼で総会及び講習会を、本年は雲仙で総会並びに講習（心理と遊戯）を開催、百参拾名の参加で盛会だった由（私は原爆の影響といわれています）微恙中で残念乍ら欠席）町立平戸

幼稚園長、島原幼稚園長等の御熱心で遂行されつゝあります。昨年は又フレ

ベル百年記念行事として講演会と、県下数カ所持ち寄り移動幼稚園画展を催しました。

佐世保市は戦災で相当廃止もあり、比良幼

は昨春から保育所に切り替えられ、進徳は終戦後保育所となり、東本願寺幼復活、聖心幼稚園新築再開、桜の聖母幼の外小学校に二カ所附設が本年から実行され、保育所は二十一年以上の歴史あり、海光園始め新設五カ園あります。

大村市には純心幼、向陽高校附設幼一と、前述大学附属幼があり、諫早市は二カ園あつたのが廢止され（諫早幼、誓願寺幼）新にカトリック教会で諫早純心幼の創設があり、島原市は島原幼、湊幼、聖和幼、相愛幼とあります。

離島対馬に町立二、壱岐一あり、五島町立福江の外富江幼があり、北松御厨幼は本年正月火災全焼焼けて、四月からは町立の保育所が建ち、幼稚園が廢止されました。

長崎県下保育所は公認されたもの六拾カ園に及びます外、炭鉱地など幼稚園名の幼稚園設立六カ園あります。正式認可幼稚園ではありませんが、炭坑アームで、経済的には良い御經營とお見受けしています。

佐世保市では、保育所のみ進徳保和田氏の提唱で佐世保保育会が出来ています。長崎平戸の公立幼稚園では日教組との連絡で活動されています。

別途長崎県内私立幼稚園では、私学法の制

定により日本私幼連も連絡をとり、十八カ園が私幼協会を樹立し、長崎県の私学審議会委員に玉ぞの幼稚園を推薦、知事より任命があり就任しています。

戦災後未復旧の園は城山幼、慶華幼、聖母幼と肥長幼三カ園と、疎開のまゝの玉の江幼と四カ園であります。又市立長崎幼稚園は大

音寺の一部を借用し不自由な中に山口菊代園長の熱心により既に元の袋町に新築せらるるトリーク教会で諫早純心幼の創設があり、島原市は島原幼、湊幼、聖和幼、相愛幼とあります。近く内外共整ったモデル幼稚園の出現されるのも間近だらうと期待しています。

以上拙文でお恥かしい事ですが概要を申し述べました。

（学校法人玉ぞの幼稚園園長）

報 告 (2)

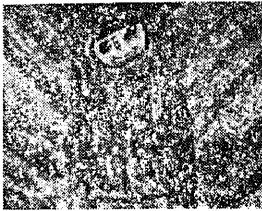
たべもの に 関 し た 話 を 創 る 子 供

谷 口 和 子

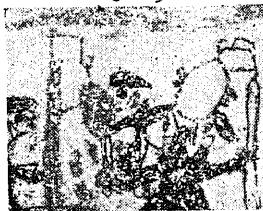
(2)



(1)



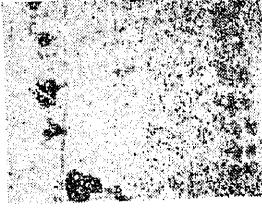
(3)



(5)



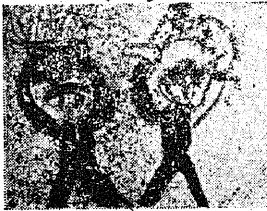
(4)



(6)



(8)



(7)



やひう等といふ。

社会的生活

○独立心のめえがみられる。

この子供のつくる話の中に出て来る主人

公に頭がよくて困難解決するすじのも

のがある。

製作やあそびの中で他人と違つたものを

しばしばつくり自分だけ違うことを得意

がる。

○所有物に対するこの観念はよく習慣づけ

られている。人に物をかしてあげる時は僕

のを借すとこうと強調する。

○遊びの仲間は多く男子で四人から五人のグ

ループで指図されたり、指図したりして遊

び、悪口をいゝけんかも盛んにする。

知的生活

○言語生活で語りの豊富なのは他の子供に比

べて驚くばかりであるが、「僕は大きくな

つたらどうだいにゆくんだ。どうだいつて

光をおくるどうだいだよ」大真面目にいう

所は聞きおぼえの子供らしさがある。

○ホールドアップとビストル強盗のまねやビ

ーピ一笛を吹いて交通整理の巡回に興味を

もつてゐる。

○数に関しては金銭に関して鋭い様で百円ま

での買物は円単位でお釣をまわがえないそ

うだし、友達がお弁当を忘れて、パンを

先生から買つてもらつと「二十円だから明

日お母さん」そう言つてやひうでくるんだ

よ」といい聞かせたことがある。

○時間の観念では今日の日附はわかるが、

曜日、年等の記憶はまだ出来ない様で、過

去については昨日、そのまえの日、それ以

外はずつとせんの言葉であらわす。

○文字についてはほくの字やしの字のまげる方

向、途中まで線をひいておいて「僕わかん

ないんだ」と何度も同じもの聞かし来る

調子であまり発達していません。

○因果関係を知り推理する力の最初の段階が

みられる。

・あるお金持の人が子供におもちゃを買つ

てやりすぎて貧乏になつたという話を作

つたことがある。

・どうぼうには入られて着物を全部盗まれ

たらどうするかという質問に對して、其

処のうちにもしが鶏を飼っていたら毛を

T A T・連想検査を行い自己表現をさせてこ

れらの窓からぞいてみた結果は次の様であ

る。

○この子の知能指数は

田中ジネー個人テスト 113. 描画テスト

112. 愛育研究所簡易テスト 114. 三浦

式136. 41三十八人のグループの中位の
程度である。

次にこの子供の家庭環境をみると

父、母、姉三人、本人の六人家族で、長姉は

病院入院中、あと二人の姉は、どちらも小

学生で学校の自治委員をしている。

父は大學卒業の學歴で銀行員、夜は大抵お

そく帰り母が養育にあたつてゐる。母は高女

専攻科卒である。家は住宅地にある。

家の二人の姉の圧方が大分強い様で、本人

と度々「おかいを」、姉達からは「坊やは可

愛がられすぎる」といわれている様である。

生育史について細かく尋ねてみたが、大体

生れてから現在まで発育のよい方らしく、又

環境の激変もない、ただ母親との話し合いの

中に、母はラジオや雑誌で育児についての知識をかなり念入りに仕込んでおり、又実際に

それを用いる合理性を尊ぶ人であることを感

じた。

ロールシャッハ検査・お話をつくるせる。

全部ぬいて赤くそめて、ピンをさして共

同募金をしてお金を集めて着物を買つ、

ロールシャッハ検査では七十六の反応語の

中全体反応が十七個あり、運動反応とする

言葉が五個みかり共に空想性の強いこと

を示した。

○ペーパーサーントの人形を与えて話をさせると主人公はジープにのり、お菓子を貰つてもらい本人が要求しているものを獲得させる。話の中で友達との間に秘密や意地悪で葛藤を起すがハッピー・エンドで解決させる。

○T.A.Tにあらわれたものは獲得 支配 攻撃 自律の要求がみられ、攻撃的な環境 主人公を保護援助なくされる環境 身体的危害や危険を与えられる環境 矢足の環境を意識していることがみられた。

尚この検査では母親の教訓がそのまま、主人公の言葉となり、又主人公をなぐさめる言葉となつており母親の影響が大きく出ている。T.A.Tは始めての少年用の十枚を試みに選んだのであるが、その物語りは環境の圧力に対抗していると考えられる心の動きがみられるが、うまく解決される様に結んであり、内部的な葛藤もさほど重大な問題ではないと考えられる。

○連想検査では対象に対する主観的な反応語が多くみられた。

何故食物に関する場面が多いのだろうか。始め私は何か異常があるか又は矢足から来る

のではないかと考えて、各生活の面を観察したが多少他の子よりもすぐれている点をみつけただけで異常なものはみつからず、成育史をみ、環境をみ、子供に自己表現をさせたが裏づけるものはみつからなかつた。

まだ少し懸念を残していることは母親の合理性が、例えば乳児期の乳の与え方が時間ぎめであるとか、おやつに澱粉質のものを与えるとか等が、子供の要求を充さないものがありはしないかと思うがこれについては研究不足もあり何ともいえない。

別的一面で考えられることはこの時期の子供の特徴として空想が現実とくつづいている。そしてこの子が環境に対して反抗し対抗しようとするとあらわれがいろいろ見られたことから、現実の場面でこの子供は相當に二人の姉から抑圧をうけておりこれに何とか対抗しようとしているが、実際にはそれが実現出来ないでいる。それで空想の場面で自分に身近なお菓子やその他の食物を自由に支配して抑圧を解消しているのではないだろうかという考え方である。この様な紙芝居を書き出す様になつてからそれまで口にしなかつた姉に対する怒口を先生に話す様になつた事や、むやみと人にあだなをつけて歩くことが、バツタリ止んだこと、よい子になろうと努力している。

等から、これで抑圧の解消をしているのではないかと考えてみたがこれもまだ研究の余地がある。

× × ×

この子供の指導はどうしたらよいであろう。この先もつづけて観察することは勿論必要であるが、これまでの過程で考えられるところは次の様なことである。

○中心問題の紙芝居については、この方面的能力を伸ばす意味からも、又抑圧解消の意味からもますく奨励してゆきたいと思う。

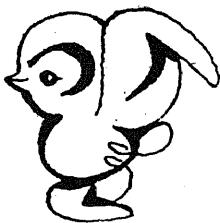
○空想力の大きい一面からいえば創始感の発達の途上にあるこの子供の創造物を、大人の眼でみずくに、子供の心になつて、喜んでおかえたいと思う。

○身体的な危害や危険に対して保護援助され慰められたい要求をもつてゐるので、適当な時にその要求に応じ、社会に対する又自分に対する信頼感を養いたいと思う。

○自律の要求もみられて來ているが、全部何でも自分ですることは出来ない。又してはならない事もある。その限界を自尊心を傷つけないで知らせてゆきたい。

○次の段階の準備として仕事を終りますする態度をつくることも適宜指導して行きたい。

(東京学芸大学附属幼稚園教諭)



十二月の保育

幼稚園……堀合文子

保育所……鈴木とく

十二月の幼稚園

年少組	年長組
○お正月のしたく。 社会のお正月のしたくがはじまると共に子供達も自分達で お正月の玩具をつくりながらお正月のくるのをたのしみに まつ	○お正月のしたく。 年少組と同じだが、観察を少し細かに、遊ぶ玩具も年少組 より複雑なものをえらぶ。

○クリスマス

宗教的という意味でなく、これも社会一般のクリスマスの
ふんいきにひたり、一つのお祭りとして、飾りものを作つ
たり、贈物をつくりたりして子供達のたのしみを一つ加え
てやるつもりで計画をすすめたい。

○クリスマス

年少組と同じ。飾りつけは、年少の時はこちらで案を立て
てやるが、もう年長組では自分達で相談してなるべく自分
達で作らせるようにしたい。自分達で飾りつけたクリスマ
スは、たとえそれが大人のと比較して美しさにかけていて
も子供達のたのしみを一そ加える事でしよう。

観察

- もみの木
- クリスマスの話
- ねずみの餅ひき
- にこにこだるません

○暮の町

町もお正月のしたくで忙がしく種々お正月のものが売出されてくるので登園の折外出の折に暮の町をみて来て、話合つて観察をつかめる。即ち社会見学であるから、子供達自身経験させてやらねばならないから家庭でも幼稚園でもその様な環境をつくつてやるとよい。

○冬の動物、植物

暖かい日をよつて庭を散歩しながら話合う。今までいた動物達、(かえる、とかげ、蝶々等)は冬の寒い間は土の中にすんでいる事。枯れたとおもわれる植物はどうしているかを大体話合つて、きかせる。

○冬至

話合いで一年中一番屋が短く夜が長い事。それからは少しづゝ、屋が又長くなつてくる事をきかせる。

○山茶花

すつかり花がなくなり淋しくなつてゐるのに、寒さにもまげず美しく咲く、この花を、お庭にあればみにゆくし、お部屋に飾つて皆でたのしむ。

- ものいろ木
- ねずみの引越
- クリスマスの話
- キリスト

○暮の町

年少組と同じだが。お正月に使う品物、門松、輪がざり、注連等を少しづくわしく話合つてみたり、又暮の大売出しの様子や普段とちがうにぎやかな様子を絵にかせたりして観察を細かにさせる。

○冬の動物、植物

年少と同じ

○冬至

年少と同じ

○山茶花

年少と同じ

○お正月の花

お正月につかう花として葉ばたん、松、水仙、千両等、寒くて花のない時に、用いられ、お正月の部屋を美しくするものとして、お花やさんでみたりして話合う。

リズム

○お餅つき

○お正月もあとわづかとなるとお餅つきの音もきかれるようになる。日本の一つの風習としてお餅つきの様子をみせたいものである。みられなくても、歌やゆうぎをしたり、絵をみて話合つたりしてお正月をたのしみにまつ氣分と共に味わいたい。

○ゆき

うたを教えると同時に、その曲でゆきのリズム遊び、自由表現をさせる。ゆきのふる表現、ゆきでだるまさん作ったりゆき合戦したりする。表現を曲にあわせてするゆき合戦のように遊びの表現になると、一体にだれてしまつて、曲にあわなかつたり終りにはさわぎになつてしまいがちであるからその点曲にあわせてといふ事も注意しながら、たのしくやらせるようになながす。

○一、一、三でしゃがみましょ

○もちつき

これも振付けられたゆうぎから発展して、お餅をついたり、こねたり、まるめたり、食べたりの表現をしてリズム遊びをする。常に曲にあわせて表現する事を忘れてはならない

○クリスマスのうた

、数が少ないので、適当にいつもその園で用いて居るのをつかえればよい。

○ゆき

年少組の時したが年長でも又取扱う。その表現はきつと年少の時より進歩した、又おもしろい表現になつてゐる事と思う。

○お正月のゆめ

○おもちゃのへいたい

○もちつき

復習の意味です。

これも自由に表現させてみたい。

○サンタのおぢさん

○クリスマスのリズム遊び

年少組では筋を大体こちらで作つてやらせたが、年長組では、相談して筋を皆でつくつてもよいし、自由にはじめかちやらせてもおもしろいのが出るとおもう。
文年少組の例にもう少し曲をはさんで複雑にして用いてもよい。

例 サンタクロース

(例 楽隊等をその間に入れてもおもしろい)

○クリスマスのリズム遊び

サンタクロースになつたり、子供達になつて玩具のおくりものをもらつたりする表現をして、一つのお話になると又おもしろい遊びが出来る。

例、ゆきのちらちら降る夜(ゆきの子供が出てゆきの降る表現)

どの家の子供もサンタクロースのおぢいさんをまつですやすやねでいます。(各家に子供達がねてる表現)

サンタクロースのおぢいさんは北の国からお玩具の一杯入った袋を肩にそりにのつてやつて来ます。(サンタクロースになる子供スキップで出てくる)

よい子の家へお玩具をおいてゆきます。(ねでいる子供の所へ一つ一つお玩具をくばる表現)

子供達はサンタクロースが帰つてからめをさましやもの贈物によるこんで皆でゆうぎをする。(めを覚ず表現。後でうれしい表現のゆうぎを皆でする)
この様に年少組だから簡単な筋をつくり。その表現は子供達に自由にさせる。一つ一つのつなぎ目には先生の方で曲を入れてあげると、「そりズム遊びもおもしろい音楽的なものになる。

○すぐらく作り

ハトロン紙又は新聞紙半分に、画用紙十六切に絵をかいた

○カレンダー作り

一ヶ月のカレンダーを、わくだけ印刷してそこへ数字をか

ものを十二枚すごろくのようにはりつける。ふり出し、上り等、墨でかいてはりつける。その絵は、何のすごろくを作るかはじめに相談して自分のときめておく。それによつてその絵を連続的にかくとよいものが出来る。

年少で連続的に十二枚かけなければ種種の絵があつても却つておもしろいものが出来る。

○ふく笑い作り

これは、印刷してあげてねつて切るだけである。

○羽子板、帆に絵をかく

白い羽子板や帆に絵をえのぐでかく。

○羽子板、帆に絵をかく

白い羽子板や帆に絵をえのぐでかく。

○クリスマスの飾り

お星様、ろうそく、靴下、輪つなぎサンタクロースのお面等ぬつて、切る仕事。年少では先生が指導でより美しく飾つて上げるのがよいでしょう。

○羽子板、帆に絵をかく

白い羽子板、帆に自分で好きにえのぐで絵をかく。
相談してどうゆうものを飾りつけるかきめる。分担して色々につくる。

大体子供達にさせるが装飾であるからやはり美しくしてやるために先生はその美しさを援助して上げねばならない。そして子供と先生と一緒になつて作り上げたい。

○自由に（タレヨシ・えのぐ）

○ぬりえ

きこみその上にその月の絵をかく。
数字は教えるのでなく、御手本をみせて、それをまねしてかゝせる程度にする。どこまでも学習的な扱いでなく数字を絵として扱つてほしい。

○カルタ作り

一組で一つのカルタを共同製作する。いろはにおつて、皆

でその読みの文句を考える。仕事は分担してやらせる。紙

はボール紙にはりつけてもよいし、又紙にかいて、煙草の箱を台紙にして張りつけてもよい。

○羽子板、帆に絵をかく

自分でかいた羽子板で羽根をついたら帆をあげたりする

はたのしいのです。羽子板は道具があれば、焼絵にする
と又おもしろみが加わる。

○クリスマスの飾り作り

相談してどうゆうものを飾りつけるかきめる。分担して色々につくる。

○自由に（タレヨン・えのぐ）

○山茶花の写生

行 事	健 康 慣 習
○第二保育期終了式	○十二月の身長体重の測定 ○お天気のよい日は外でよく遊びましょう ○うがいをしていねいにしましょう
	○お友達とけんかをしない様にしましょう ○自分で遊んだものは必ず自分でしまいましょう
	○乗物の中では静かにしましょう ○誰にでも挨拶(朝や帰り)が出来る人になりましょう
○第二保育期終了式	○十二月の身長体重測定 ○お天気のよい日は外でよく遊びましょう ○うがいをしていねいにしましょう
	○乗りえ

十二月の保育所

鈴木とく

幼児にとって、十二月は何かを待ちもうける楽しい月です。夫々

の年令でまとまつた、集団生活を続けて来ましたが、共同生活での

学習の上からも、生活、それ自体の上でも、各年令、各組なりに、

何か骨組が出来上る月である様に思われます。

何かをやるにしても、年少組・四才児組・年長組、夫々の年令な

りに、何かしつかりとして来た感じが受け取られます。これから続く

冬の四カ月が、丁度、秋播き種が、地中で春の開花の為に根を張る

様に、その年代なりの活動を、肉づけする様に、考えて、保育の計

画をたてる上に配慮したらと思ひます。

例えば、

四月から、夫々に遊びや生活指導で計画され、実施されたことが
どれだけ幼児自身のものとなつてゐるか、あらわせる様な保育の計
画。火災予防週間、交通安全週間等にちなむ、保育所内での待避、

集合の訓練。

○巷の売出しとか、クリスマスセールにちなむ店屋ごっこ。

○信仰の有無に拘らず一つの年中行事の感のあるクリスマスのプレ

ゼント製作や、その日のお祝いの集りにすること。

これらを、新しい材料でるのでなく、これ迄の生活で、自由に、
自分のものとしてつかえる様になつたものを發揮させる様にしたい
のです。

又、どんな幼児が、それらの、何と何を身につけ得ないでいるか

をみて、それを助けてあげる保育の工夫。

こうした事を、胸におきたいと思います。

◇保育所全体の生活プランを考えるについて◇

○冬期の、『保育所一日のプログラム』をくみかえる事。朝の起床、食事、登所時間等が變つて来るので、保育所内の時間にも変更があるべきです。

○この月にも年中行事がありますが、これの考え方を保母一同で検討し、反省すること。

○年長組の生活が主体となつて、案がたてらがちであるのを、どの組にも、注意の行きとどいたものにしたいこと。

九月にも、『保育所一日のプログラム』について書きましたが、保育所の児童について、親切に考えれば考えるほど、時間のとり方を苦心し、検討する様になります。この事が、児童の生活のもと、なのですから、食生活、遊びの生活、休息生活、その他の、時間的配慮が、年令を異にしてなされるべきです。冬は、夏や、春秋のプログラムのまゝでは、すまされません。一日の時間的配列だけなく、その時間になされる生活内容を、細々書きとめておいた方がよい様です。

『年中行事』については、これが、児童の生活を進行させる目標となり勝ちで、又それもよいと思いますが行事を目標としての遊びの計画でなく、日々の遊びの経験が、行事の日に、さりげなくまとまり、表現されて、楽しい、常と変わった日を過せる、と云うもの

であります。

三、四才児まで、クリスマスの遊びのために、又は、お正月の新年会「母と子の集い」等のために、年長組よりやさしいものだからいゝだらうと云う考え方だけで、描され、作られ、練習させられる生活が多くなるのは、反省すべきだと思います。

こうした考え方のもとに、各年令の、この月の生活を進めて行きたいのですが、四、五才児の遊びの予定案は、毎号、堀合先生が具体的に示されておられますから、それを参考にして頂くことにして十二月の保育所生活で、留意したいことを、各面から見て行きたいと思います。

◇生活指導の面から◇

○手の拭き方。（ひゞ、あかぎれの予防のためにも）

○ぬれた手のまゝ、火にかざさない。（前回）

○ガラ／＼と喉を洗う喉のし方の徹底。年少組はやり方が上手になる様。中組年長組は、はき出す時ふさけてあたりにふきちらさない様に。

○鼻がたれていたら、お友達に教えてあげる。

○咳、くしゃみの時、必ず手で口をおゝう。

○足袋はだしで庭に出たら、足袋をぬいで、部屋に入る。

○足袋はだしで庭に出たら、足袋をぬいで、部屋に入る。

○ぬいだ足袋や靴下は必ずまとめて、一定の籠なり箱に入れる。

○焚火のあとの火あそび、ストーブ、火鉢の火のいたずらは、火

事のもの、と理解させる。

○室内生活が多くなるから、他の組の仕事に邪魔になる様なことにつき注意する。廊下は静かに、必要以上の大声でわめかない様にする。

○物の置場の乱れは、清潔感をなくするから、所持品のおき方、

遊び道具のしまつのかた、作業のあとしまつ等、特に注意。

生活指導の面は、その保育所の、その年令により又、四月からの案の立て方、習慣のつき工合等で、必ずしもこの様ではないと思いまます。

一般的にとりあげて考えてみたいことをぬき出した文です。たゞ、廊下に紙屑がちらかり、オーバーかけたらオーバーがおちており、手拭が床に落ちていたりするのを、何気なくしまつする保母を、幼児はみている、と云うことを思いましょ。口だけ、ひろいなさい、かけなさい、と良習慣を強いる丈では駄目だと思います。

他の人の邪魔をしたり、迷惑をかけたりしない、と云うことは、共同生活の上で一番きびしくされなければならないこと、思ひます。

生活のすべてについて、組全体の用意の出来上りを待つと云うこと（例えば、手洗いも用便も、すむまでまつてある。食事も、みんな用意が出来上る迄待つ、等）は考え方のですが、先にすんだ者が、あとになつたものへの思いやりについては、保母が、よい方法を示すとか、その次の生活の準備をさせるとかであとになつた者へ迷惑にならない様な心やりを、常に示すべきでしよう。

自分の組だけが、たてた一日のプログラムに忠実であればよいと云う、他に対する注意と親切の行きとゞかない気持が、どんなに、

他の組に迷惑をかけているかを氣つかせない事が多い。こんな保母では、幼児に、他人の迷惑になる事をしない様にと云つてもいたし方ないのでないでしようか。

◇ 健康保育の面から ◇

私達は、空気に対しても敏感でない様です。電車にのつていて、どんなにいやな匂がしていても、少し寒いと窓を開けようとしない。

○冬は、ことさら部屋の換気_ADDRESS_に注意したい。

○ストーブをたいたら、乾燥しない様に湯気をたてることを忘れない。

○火の側でばかりあたゝまるうとしないで遊びの中で温くなる、活動的なものを選びたい。

○風があまり強くない限り、外気にふれる事を毎日欠かしたくない。

○火をたくことで部屋が埃っぽくなる。出来る丈、掃除をまめにしたい。

○感冒らしいと気がついたら、よく納得よく様に訳を話して、欠席して貰う様にしたい。

保育所の使命から云えば、隔離室をもつて、親が介しているうち、保育してあげるのが本當であるが、現在、これが出来る保育所は、いくつあることか？

○乾布摩擦や、日光浴は、夏以来、裸になれた幼児には平氣ですかから、予防医学に熱心なお医者様の指導をうけ、一方母親教育も根気よく続けながら実行したい。

○寝巻に着かえる時、肌着も全部ぬいで、着かえる様に。

○裸、うす着の遊びの時、全員が活動的な遊びをする様リードする。

◇遊びの面から◇

○街頭での遊びの種類が多く入りこむ」と、どの様に保育にむけらるか。

○年長組の、名前の読み書き、と数の問題を、どの様に扱うか。

○団体遊びの種類を色々と工夫したい。

この月から冬中、街頭での遊びがそのまま、保育所にもたらされるものが多いためです。中でも、いつも問題にされるのは、「めん」遊びの事です。これをいけないと禁止する理由は、いろいろある事でしょうが、禁止しないで、よい方向に、或は他の遊びに転ずる工夫をした方がよくなきかと思ひます。

相當に活動的ですし、技巧もいる遊びです。又勝つてやりとりしなければ面白くないでしよう。この事で、喧嘩も多くなるかもしれません、とりあげたり、遊ぶのを禁止したりしないで、この事にだけ夢中になつてしまわない様に遊びの転換をうまくやらまじよう。

ヒコーキとばしもそうです。紙を無駄にする、紙をちらかす、と消極的な面のみ心をむけず、古新聞、古雑誌、あきる程折らせ、飛ばしてあげたいと思います。自分で色々な折り方や、とばし方、どんな風に折れば、真直に早くとんだり、宙返りをしたりするか等工夫します。又そうする様にしむけましょう。

カルタ、絵合わせ等は暮も近い頃の室内遊びですが、之はみんなで製作出来ますから、保育室の中の絵画製作の一つにならましょう。縄とび、はねつき、風あべ、石けりは、運動場がぬからい所では、外気にぶれる為のよい遊びです。之を表す、律動も、歌も古くから歌いならされたものがありますから、適当にとり入れましょう。

おはじきやお手玉も、冬になると盛になる様ですが、遊びの中にとり入れるなら、別に季節をやかましく云わなくともいい、と思います。おはじきは、感覚遊びに随分適するものだと思います。ガラス製でなく、彩色して、中央に穴のあいているものは、二、三才児の紐とおしに利用したり、牛乳瓶等に出したり、入れたり、ふつて音を楽しんだりは、一才児の遊びです。之は口に入れるのを注意しなければなりません。二つを打ち合せる昔からの遊び方も、工夫すれば四、五才児のよい遊びとなりましょ。

おそらくまで居残る幼児と、火の側で縫うお手玉も、いくつか持えておく事で、一人々々のもちあそびにも、共同での遊びにも利用出来ます。

◇ ◇ ◇

冬の午後の時間は、設備の点で午睡が出来なくなる所が多いと思います。年少組までと要注意児は、何とかして午睡をさせたい、と思いますが、この時間中、午睡をしない、年長組はどの様にするか問題となると思います。午前中と違つて疲労感から来る落着きなどもあります。創造的活動はもうあがらないと見てよいでしょう。この時間を、年令組別にして保育室通りの、絵かきや、その他の製作

に引つぱるのは、たとえ保母の云うなりに従つたとしても、幼児の側では喜びは少いと思います。

午後一時から二時十五分過位迄を、私の所では「保育園の静な時間」としています。午睡をしている小さなお友達の邪魔にならぬ様に、又大きな組のお友達も、静に時を過す習慣がつく様に。絵本をよんで頂いたり、お話をきいたり、紙芝居や、人形芝居をして頂いたり。それらに興味のむかない幼児は、好きな、静な遊びをする様にします。

或は、小春日和でしたら小憩後散歩に出るとかします。

その後のおやつ迄の時間や、おやつがすんだあととの時間は、なるべくゲームをして、年長も年少も共に楽しむ様にします。

ゲームも一人が活動して何かあたる迄まつと云う様な、或は一人づゝ順々にする様な形式でなく、全体が動ける様なものを選びたいと思います。ツルカメ形式、鬼ごっこ形式、花一枚形式、リレー形式等、一つか二つ知っているものから工夫をして遊び方を生み出して行きましょう。

◇ ◇ ◇

文字と数の問題は、四月から保育案を計画する時に、その事に親しむ様な行き方をすれば、特別教えるまなくても、低学年で要求している程度の事は出来上つて来ますが、も一度組全体を調べてみてどの程度であるかを知る必要があります。ななく出来ない幼児に二月頃になつてから慌て、つぎこむことのない様に。自分の名前を

読み、書くことは、鉛筆と紙が、自分のものとして、自由に使える様にしてあれば、「お勉強、お勉強」と勝手に出して書いていま

す。

どうしても出来ない者には、手をとつて、書かしてあげなければならないでしょう。発達のおくれた幼児には、大変な負担にならぬ様にこの月頃から徐々に、やらせなければならないと思います。

一から五迄の数を、加えたり、引いたり、順として理解する為には、日々の生活中での一寸した心がけが、数生活への興味を起すもともなりましょう。お八つのあめやビスケットの数、お盆にのせるカップの数、お皿の枚数等々。入学準備として、特別問ぎわになつてから、保育の中へ折りこんだり、それだけとり出してつぎこんだりしない様に、注意したいと思います。

◇ 家庭への連絡 ◇

○寒いので、お風呂に入る回数が少くなりがちですから、皮膚の清潔と、肌膚の清潔について、特に注意して頂きましょう。

○夜ねる前、外出後、朝おきた時のうがいは忘れずする様に、お母さんも励行しましょう。

○保育所では、スッポリ裸になつて寝巻に着換えるのですから、皮膚と、意志の鍛錬の為にも、お家でもそうする様にして頂きましょう。

○クリスマスにお前は何をするの？とせめたて、頂かない様にみんなで、たのしく、歌つたり、おどつたりするのですから。

○暮のお休みになつたら、お小遣の使い方を上手に指導して頂く様に。せがまれるまゝに何十円と与えない様に。（17頁へ）

アメリカ 通信

—5—

津 守 真

○ アメリカの女性と男性

日本にいる時、アメリカでは女を大事にするから、礼儀を講まえて気をつけないといけないぞと芳々で云はれた。電車の乗り降りには女を先きにして、皿洗いは男がして、いろいろ頭の中で考えてきた。

☆ ☆ ☆

私はいつも学校に行くのに、市電にのつて通う。アメリカは自動車が発達しているけれども、私のように自動車を持たない学生ばかりでなく、通学と通勤には、駐車場にも困るし、市電もよく使うことは日本と同じである。電車にのる時、おりる時、男

も女もない。ごたくである。男の人が座つていて、女の人が乗つてきて、腰ひける所がなくとも、席をゆずるということは先ずない。女人人が乗つてくると、ばね仕掛けのように席をゆずるのは、日本人の学生位のものであろう。但し、女人人が座ろうとしている所によこからすばやく座つてしまふような者もいないが。それから市電についているのは女が絶対的に多い。これは、昼間、男が自動車に乗つて、通勤してしまふということにもよる。

☆ ☆ ☆

家庭で、料理、洗濯、掃除を引き受けるのは、疑もなく女であることは、此のアメ

リカでもかわりないようである。男が料理をしたというと、珍しがられる。食後の皿洗いも、主人は坐つて新聞をよみ奥さんががたごと後片附をするというのが、ごく当たり前のことである。奥さんが、夜になつてアイロンをかけていても、主人は、煙草をふかして雑誌をよんでいるという調子である。勿論、これは家庭にもよるらしい。何人かの人に、男は仍らかなのか、ときいてみた。勿論結婚したてた時は、男が一緒にになって仍らくけれど、一寸たてばもうこの調子ですよ。といつて苦笑ついた。こういう人情はどこの國もかわりないらしい。

立したら、その代りに男は、さっぱり女のことを構はなくなつた、といつてゐる。

奥さんが御主人に、誰を投票しようか、

ときいていた頃は、電車の中でも男は女に席をゆずつたのだそうである。それが、女が勝手に新聞をよんでも御主人に黙つて投票するようになつてから女が乗つて来ても男は知らぬ顔をして新聞をよんでいるようになつたそつである。

それでも、アメリカの男性の中には、女を美くしくしておくのは男のつとめだ、とうような気持もかなりある。たしかにアメリカの女性は、七十、八十になるまで美くしく保つことをつとめている。服装と化粧と。あるかなりの年配の婦人に、アメリカをどう思うか、と聞かれたことがあつた。私は、皆なかなか、きれいですね、と答へたら、朝起きた時を見てみろ、皆同じだ、と云つて笑つていた。女のあくどい化粧程みられたものではないが、それなりに女を美くしく保つておくのは男のつとめでありたいものである。貧乏なら貧乏なりに。

☆ ☆ ☆

道を歩いていて気づくのは先ず女が昂然と胸を張つて溜歩している姿であろう。日

本でアメリカ婦人を見る時、そういう印象を受けるのと同じ様に。それを見ると、アメリカの女性は氣位が高くてとりつきにいかと思う。しかし一度家の中に入ると全く日本の女性とかわりない。家庭は勿論。角ばらない会合においては。

☆ ☆ ☆

日本でも行われてゐるが、エンゲージリングというのがある。これは先づアメリカでは例外なく習慣になつてゐる。婚約をする、男が女に、ダイヤの指輪を贈るのである。此の指輪は大がいきやしやで比較的高価なものだから、すぐにつむけがつく。結婚をする、又宝石のつかない、リングだけを贈る。最近はダブルリングと云つて、女から男にも贈ることが多くなつてきた。

この指輪によつて男は、女を容易に見分けることが出来る。大学の教室でも、面白いことが起る。気をつけてみていると、指輪をした女のそばには、男の学生は坐らなかつた。それは、この國もかわりがない。ミネアポリスは冬から夏が急にやつてくる。雪がとけると、急に木の芽が萌え出し、芝生が青々としてくる。そうするともう子供は自然の中の生物である。冬の間は、雪と寒さにとちこめられて、刺戦の強いテレビジョンにばかりかぢりついていた不自然な子供達も今は、暗くなるまで外をとびまわつてゐる。

私のいた家庭に、三人の子供がいた。トミーが小学校五年生の男の子、マギーが二年生の女の子、チャックが幼稚園の男の子である。夕食の時には必ず家族皆食卓をかこむことになつてゐる。トミーとチャックは、真黒になつてかけこんで、一口

○ こ ど も

電車を降りて、並木路を歩いていると、

あちらから、こちらから子供達が私の名前をよんでかけ出してくれる。どこから呼ばれたのかと思つてきよろきよろしてみると、遠くの方でブランコの上から手をふつてゐる。子供に名前をよばれるようになるといふのはうれしいものである。子供の親しみはどこの國もかわりがない。

ミネアボリスは冬から夏が急にやつてくる。雪がとけると、急に木の芽が萌え出し、芝生が青々としてくる。そうするともう子供は自然の中の生物である。冬の間は、雪と寒さにとちこめられて、刺戦の強いテレビジョンにばかりかぢりついていた不自然な子供達も今は、暗くなるまで外をとびまわつてゐる。

まう。八時になると父親が大きな声でどなると、真黒になつて入つてきて、母親が面倒をみてベットに入る。時々父母が留守をする時は、近所の高等学校九年生の女の子のナンシーが一晩一ドルで子供の面倒をみにくる。その時は大きさわぎである。いつも十分もすれば静かになるのが、チャックトミーは足を洗わないといつてけんかになる。マギーが悪口を云つて又ナンシーが一緒にむきになつてけんかをする。

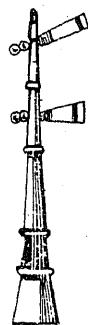
夜九時になると、ミネアポリス市では、サイレンをならす。これは、子供達に、うちに帰れという合図である。十六才以下の子供が町を一人で歩いていると、巡査にとめられる。ナンシーには二人弟があつて、帰宅時間になると、父親が笛を吹く。一つ笛は末の子、二つ笛はその次、三つ笛はナンシーである。三つ笛がなるとナンシーは帰る。

○ 教育学者 心理学者の死

最近数週間の中に、有名な教育学者心理学者がかなり死んだ。デューイー教授の死

は世界中にある。デューイー教授の教授生活のあり出しはミネソタ大学であり。ここからシカゴ大学に移つた。イタリーのモンテツソリーがやはり、つい数週間前に死んだ。新教育の発展をどういう風に見守りながら此の世を去つたであろうか、

と知りたく思う。ネオ・ビヘイヴィアリズムで有名なドクター・ハル (Dr. Hull) が死んだのも、此の数週間のことである。それからウェルマン教授 (Dr. wellman) も此の数週間前に死んだ。



幼児の教育

第五十一卷總目錄

第一号

すべての子供達のために

(ヌース) 肯定と否定 山下俊郎 倉橋惣三

日本保育界發展のために
考慮すべき重要諸問題 協力委員座談會

都市幼児の保育 清水桔梗	アメリカ童話から(15) 松原至大	日教組第一回全国教育研究大会 参加記	冬期における幼児の保健問題	絵本に関する調査について
ソグエートの就学前教育	アメリカだより(1)	相場	山下俊郎	広瀬興
幼稚園と保育所の先生養成の問題	日教組第一回全国教育研究大会 参加記	上野芳太郎	山下俊郎	小川正通
幼稚園教諭養成の現状について	冬期における幼児の保健問題	上村	廣瀬興	根岸草笛
すべて昭和二十七年度募集要綱一覽	絵本に関する調査について	上野芳太郎	小川正通	及川ふみ

第三号

保育の対象は幼児一人一人にある

(ヌース) わた一回目と鉄一貫目

保育者自省の好機

特集・幼稚園と小學校の連絡

幼稚園の立場から

小学校の立場から

佐小武中藤林青柳内松波多野完治

(ヌース) ころぬい湯ヶ原幼稚園
第六回全国保育大会予告
幼稚園と保育所の先生を養成するに就て

農村幼稚の保育(1)

農村幼稚の保育(2)

新入園児の保健

小児麻痺について(1)

アメリカ童話から(16)

(講話) 幼児の心理(1)

昭和二十七年度募集要綱一覽

常に親しく幼児に接する人々

倉橋惣三

第四号

保育者自省の好機

(ヌース) ある新聞記事から

多田鉄雄

多田富士雄

評価の簡易基準及び評価の手引

鈴木信政

鈴木信政

農村幼稚の保育(2)

根岸草笛

根岸草笛

新入園児の保健

齊藤文雄

齊藤文雄

アメリカ童話から(16)

多田富士雄

多田富士雄

(講話) 幼児の心理(1)

波多野完治

波多野完治

昭和二十七年度募集要綱一覽

昭和二十七年度募集要綱一覽

昭和二十七年度募集要綱一覽

第五号

幼児の修身教育に就ての基本的考え方

(ヌース)戦争玩具に関連して

倉橋惣三

農村幼児の保育(3)

牛島義友

変つた幼児(1)

根岸草笛

特集座談會・幼児問題を語る

吉見静江・大島文義・山村きよ・青柳

三

義智代・秋田美子・鈴木とく・倉橋惣

子供讀歌(19)

佐竹義輔

(講話)幼児の心理(2)

倉橋惣三

第六回全国保育大会予告

波多野完治

第六号

幼児の自らもつものを

倉橋惣三

児童と文化

斎藤文雄

若い人の健康

中山茂正

幼児保育者の教養

松村康平

倉橋惣三

京都の保育界

アメリカ童話から(17)

松原至

京都の保育界

日本保育学会

国分順子

倉橋惣三

変つた幼児(2)

村山貞雄

幼児の遊びと保育計画(1)

飯沼てる

アメリカ通信(1)

津守真

(講話)幼児の心理(3)

波多野完治

第三回全国国公立幼稚園長会要項

第一回全国保育事業大会案内

教育実際指導研究会案内

第六回日本保育大会開催要綱

日本保育学会第五回大会開催案内

日本保育事業大会予告

個別指導について

国分順子

第五回関東保育研究会

高橋寿美夫

日本幼稚園協会主催保育講習会

幼稚園教員免許法認定講習会

日本保育事業大会予告

日本保育学会

倉橋惣三

九月の保育

堀合文子

問題児事例研究

坂本幸子

名古屋市・愛知県の保育界

安間公観

キンダーブックに浮世絵を入れたに就て

鈴木とく

特殊児の言語教育について

中谷久子

青いガール

浅野寿美子

私と浮世絵

倉橋惣三

歯列の不正をおこす種々なる不良習癖について

内山憲尚

松村康平

堀合文子

特集・日本保育學界第五回大會研究發表

山田徳兵衛

保育者と精神衛生

西本文脩

鈴木至

堀合文子

幼児の性格觀察

竹田俊雄

シンボシウム

深田英朗

十月の保育

堀合文子

音符遊びについて

小木曾光子

秋の賦

山下俊郎

ゆきとゞかない人

津守真子

保育に於ける童話の使命

砥上種樹

(大島・筑紫・副島・小宮山・森脇)

及川ふみ

自由遊びの性格

吉田昇

幼児の音樂經驗に於ける環境より

水野久一郎

私の幼児教育研究の宿題(2)

児玉豊

子どもの怪我の応急手当

平井信義

手先の訓練について

宮内草笛

秋の賦

山下俊郎

私の幼児教育研究の宿題(2)

宮内豊

幼稚園に於ける「社会」について

珠川善子

(ヌース)育てる者の喜びと淋しさ

及川正通

保育所の家庭化的運営

平井信義

北陸の一地区で幼児教育はどうのよう

高峰吉孝

どんなん幼稚園がよい幼稚園でしようか

小川正通

幼児の絵画製作の種類(2)

副島ハマ

今後の幼稚園保育所の歯科衛生はどうあるべきか

深田英朗

アメリカの幼児教育視察報告

いたずらつ子

報告(1)

都会の幼児は日光を求める

徳久孝子

谷口和子

報告(2)

たべものに閑した話を創る
子供 谷口和子

十一月の保育

アメリカ通信(3)

堀合文子 鈴木とくま

第十二号

十一月の保育
アメリカ通信(4)

堀合文子 鈴木とくま

冬を迎へる

倉橋惣三

(ヌース) P.T.A.とスライド

波多野完治

保育所における保母の健康管理

小学校学習指導要領社会科篇の改訂
幼稚園の設置基準について
幼稚園教育理解のために

モデル幼稚園候補校の指定

幼稚園基準について

(マザー・グースについて)

松原至大

終戦前後の長崎保育界から

荒木嘉弘

幼児にキリストを語るについて

高崎能樹

幼児の遊びと保育計画(3)

飯沼てるる

移轉お知らせ

毎回格別の御愛顧を賜わり厚く御
礼申上げます。

扱て、小社、この度十一月二日よ
り左記に移転いたしました。車便
は別記の通りで御座います。
御来社の程お待ち申上げます。

新住所

東京都千代田区神田小川町

二丁目五番地ノ二

株式会社 フレーべル館

車便

省線はお茶の水駅下車で徒
歩十分、都電は駿河台下又
は小川町下車徒歩三分、都
電小川町と駿河台の間の南
側電車通りでございます。

めぐらしく曉の鐘が聞こえて来た。その

寺をやつと訪ねてた日、その山門に、まこと幼稚園の名を見出でて、縁を感じた。

若い住職である園長さんは、毎払曉、自ら力を籠めて鐘をつきしき終つた後、丘を降りて、その日の保育を開始すると語られた。夏は満身汗ぐつしよりになり、冬の朝は重い鐘木に手さきが凍るそうである。しかも、この厳しい勤行を以て日々の保育を始められる佐々氏は幸福な幼稚園長である。幼児の無邪氣に接する前に、先づ心を

梵鐘の余音に澄ませていられるのである。今多くの保育者諸君の、慌しい朝の時間のなかにあつて、羨しいことである。

境内には、緋紅梅の古木もあり、艶を誇る牡丹園もあり、また、鐘楼の丘には、竹林を背景に、うべの繁茂がある。季節々々の風致、節をさそうに値する。しかし、足不精な筆者は散歩の途をこゝまで伸ばして

保育應答研究会

一、十一月十五日、十二月二十日
(いづれも第三土曜日)(午後一時半)

一、会場。フレーベル館講堂

来会随意。会費不要

一、講師。倉橋惣三先生

フレーベル館内

保育應答研究会係

幼児の教育 第三卷 第十二号

定 價 金 五 十 円
昭和二十七年十二月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉 橋 懿 三

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

出版社 東京都板橋区志村町五番地
日本幼稚園協会
発行所 東京都千代田区神田神保町二ノ四
株式会社 フレーベル館
発売所 振替口座東京一九六四〇番
凸版印刷株式会社

○本雑誌購読について注文申込その他はすべて發賣所フレーベル館宛願います

増子とし先生編著

新刊

保育のための

音楽カリキュラム

上・下巻

(近日発売)

B5上製 各巻共一四四頁 定価一、二巻共四〇〇円
従来、歌とおどりとが、別々のものとして取扱われる傾きがありましたが、本書は両者の密接不離のつながりに重きをおいて、有機的立体的結合を主眼として、カリキュラムを組んであります。すなわち、一つの教材において運動リズム、音楽のリズムその他を多角的に取扱っている点に本書の特色があります。

保育音樂リズムの權威たる、著者、増子とし先生の声望は夙に定評あるところで御座います。先生半生の苦心の成果がこの二巻に圧縮されていると申すも過言では御座いません。

新遊具

わなげ

トロッコ (特種木車使用)
屋内遊びにも、屋外運動にも、努力遊具として適切な
新案 特徴、前車輪方向回転式

新型(大) A16号 五色輪五つ 定価六五〇円
台つなぎ組立式、輪はあたらしくできた内蔵鋼鉄線
つなぎ輪

發行所 株式会社 フレー贝尔館

東京都千代田区神田小川町二ノ五

厚生省兒童局編 保育指針

A5型 153頁 定価 130円 送料 30円

(お申込は振替又は小為替利用が便利です)

保育するということは安易なようで、なかなかむづかしい。こん度保育所のみならず、他の児童福祉施設における保育の急に保育計画の立て方保育児童の問題など、児童福祉施設一般にわたる保育の専門事項を取り纏め、こゝに「保育指針」として上梓するとになつた。本書の活用如何はかかるて保育に携る者の手腕と技術にまつべきであろうと思う。

厚生省兒童局長 高田正巳序

保育の目標と原理…吉見 静江	育成…キツクリツヒ
生活の環境と調整…高島 錠	保育計画と自発性…副島 ハマ
身体の機能の発達…斎藤 文雄	保育計画とは何か…珠川 善子
精神の発達…牛島 義友	1-2才幼児の保育…鈴木 とく
活動指導…堀 要雄	乳児院に於ける保育…星野きく代
遊び指導…竹田 俊雄	看護施設に於ける保育…高島謙
遊能の育成…副島 ハマ	保育の実際問題…堀 要

【内容の一部】

東京都千代田区 神田司町一の一 財團法人 日本兒童協會 振替 東京 一九五三二九番

1月号予告

観察

キンダーブック

繪本

第7集

KINDER-BOOK
【たのしいあそびうた】

第10編

☆お子さま方の感情と知識の

成育のために古く広く好評の高い本☆



A4判・16頁・月一回発行
定価 45円・送料 8円付

「たのしい
あそびうた」
お正月には、無邪気に
面白い子ども遊びや、子
供歌が沢山あります。
その中には、日本的な
美しさと、日本のユウ
モアとに富んだものがあ
ります。

お子さんといいしょに
遊んであげる時の少ない
お母さま方も、せめてお
正月には、お子さんと興
味を一つにして遊び歌
であげて下さい。先生方
もふだんより、一層にこ
やかに、お子さん達と笑
いを共にして、遊び歌つ
いてあげて下さい。

お子さんといいしょに
遊んであげる時の少ない
お母さま方も、せめてお
正月には、お子さんと興
味を一つにして遊び歌
であげて下さい。先生方
もふだんより、一層にこ
やかに、お子さん達と笑
いを共にして、遊び歌つ
いてあげて下さい。

東京口座 振替
一九六四〇番

發行所 株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田
神保町二丁目四番地